

## 和仏法律学校講義録

遠藤, 忠次 / 下村, 宏 / 鶴見, 守義 / 荒井, 賢太郎 / 松  
本, 烝治 / 和仁, 貞吉

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1902-02-25

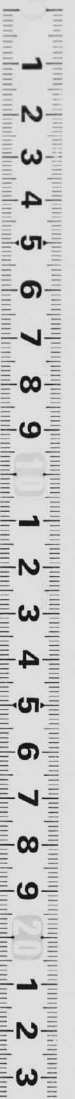
(明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可 每月二回  
明治三十五年二月二十五日發行)

三十五年度 第二學年

# 和佛法律學校講義錄

吉 第 八 號

和佛法律學校發行



第二學年第八號目次

民法債權第一章(自五七至六四)

法學士 荒井賢太郎

商法商行為(自一七至九章)

法學士 松本 雫 治

商法會社(自九八至一〇八)

法學士 和 仁 貞 吉

民事訴訟法第二編(自一一六至一二六)

法學士 遠 藤 忠 次

刑事訴訟法(自一〇三至一〇七)

法律學士 鶴 見 守 義

財政學(自一四七至一四七)

法學士 下 村 宏

雜報 ○刑法改正案○擔任講師ノ變更

第四百二十七條ハ債權者ト債務者トノ間ニ於ケル權利ノ行使若クハ義務ノ履行ニ對スル關係ヲ定メタルニ非スシテ各債權者間若クハ各債務者間ニ於ケル權利義務ノ割合ヲ定メタルモノナリ故ニ債權者ト債務者トノ間ニ於テハ不可分債務者クハ連帶債務ノ如キ一人ノ債權者ニシテ全部ノ權利ヲ行使シ又ハ一人ノ債務者ニシテ全部ノ義務ヲ履行スル場合アリト雖モ此ノ如キ場合ニ於テモ其各債權者間ニ於ケル權利ノ割合又ハ各債務者間ニ於ケル義務負擔ノ割合ハ特別ノ意思表示ナキトキハ當ニ平等ナルモノト看做サルルモノトス

第二款 不可分債務

數人ノ債權者若クハ數人ノ債務者アル場合ニ於テハ原則トシテ各債權者及ヒ各債務者ハ獨立シテ其權利ヲ行ヒ又ハ義務ヲ履行スヘキモノトス詳言スレハ各債權者又ハ各債務者カ有スル權利ノ割合又ハ負擔スル義務ノ割合ニ應シテ權利ヲ行ヒ又ハ義務ヲ履行スルモノナリ然ルニ此原則ニ對シ例外ノ場合アリ即チ不可分債務及ヒ連帶債務ノ場合はナリ此ニ場合ヲ除キ普通ニ數人ノ當事

090  
1902  
2-1-8

第四百二十七條ハ債權者ト債務者トノ間ニ於ケル權利ノ行使若クハ義務ノ履行ニ對スル關係ヲ定メタルニ非スシテ各債權者間若クハ各債務者間ニ於ケル權利義務ノ割合ヲ定メタルモノナリ故ニ債權者ト債務者トノ間ニ於テハ不可分債務若クハ連帶債務ノ如キ一人ノ債權者ニシテ全部ノ權利ヲ行使シ又ハ一人ノ債務者ニシテ全部ノ義務ヲ履行スル場合アリト雖モ此ノ如キ場合ニ於テモ其各債權者間ニ於ケル權利ノ割合又ハ各債務者間ニ於ケル義務負擔ノ割合ハ特別ノ意思表示ナキトキハ常ニ平等ナルモノト看做サルモノトス

### 第二款 不可分債務

數人ノ債權者若クハ數人ノ債務者アル場合ニ於テハ原則トシテ各債權者及ヒ各債務者ハ獨立シテ其權利ヲ行ヒ又ハ義務ヲ履行スヘキモノトス詳言スレバ各債權者又ハ各債務者カ有スル權利ノ割合又ハ負擔スル義務ノ割合ニ應ジテ權利ヲ行ヒ又ハ義務ヲ履行スルモノナリ然ルニ此原則ニ對シ例外ノ場合アリ即チ不可分債務及ヒ連帶債務ノ場合也ナリ此ニ二場合ヲ除キ普通ニ數人ノ當事

民法債權 多數當事者ノ債權



者アル場合ハ之ヲ連帶債務ト稱ス此連合債務ハ各當事者ハ互ニ獨立シテ權利ヲ行ヒ義務ヲ履行スルヲ以テ若シ債權者ノ一人カ全部ノ義務ノ履行ヲ請求シ而シテ債務者之ヲ履行シタルトキハ他ノ債權者ハ之ニ關セズシテ自己ノ有スル權利ノ割合ニ應ジテ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ何トナレハ債權者カ全部ノ履行ヲ請求シタルトキハ自己ノ有セサル權利ヲ行使シタルモノナレハ之カ爲メニ他ノ債權者カ其權利ノ行使ヲ妨ケララルル理由ナケレハナリ之ト同シク債務者ノ一人カ全部ノ履行ヲ爲シタルトキト雖モ他ノ債務者ハ猶ホ自己ノ負擔スル義務ノ履行ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ債務者カ全部ノ履行ヲ爲シタルハ自己ノ負擔セサル義務ノ履行ヲ爲シタルモノナレハ之カ爲メニ他ノ債務者カ自己固有ノ負擔部分ヲ免ルル理由ナケレバナリ

以下不可分債務ニ付キ説明セントス

不可分債務トハ債權ノ目的カ分割スヘカラサル場合ニ於テ生スル所ノ債務ヲ謂フ而シテ債權ノ目的ノ可分ナルト不可分ナルトハ當事者單數ノ場合ニハ何等ノ影響ヲモ生セサルナリ蓋シ單一ノ當事者間ニ於テハ其債權債務ノ目的ト

スル所ニ隨ヒテ權利ヲ行使シ義務ヲ履行スルノミニ過キス是ヲ以テ債權ノ目的ノ可分ナリヤ將タ不可分ナリヤハ當事者多數ノ場合ニ始メテ其適用ノ差異ヲ見ルナリ若シ債權ノ目的可分ナルトキハ前述ノ如ク連帶債務トシテ各當事者ノ有シ若クハ負擔スル割合ニ於テ權利ヲ行使シ義務ヲ履行スルモノタリ之ニ反シテ其目的不可分ナルトキハ不可分債務トシテ各當事者ハ第四百二十八條以下ノ規定ニ從ヒテ權利ヲ行使シ又ハ義務ヲ履行セサルヘカラス

凡ソ債權ノ目的ノ不可分ハ二箇ノ原因ニ由リテ生ス即チ第一ハ債權ノ目的カ性質上不可分ナル場合ニシテ例ヘハ東京ヨリ大坂マテ旅行スルト云フカ如キ作爲ノ義務ヲ負擔スルトキハ此債務タルヤ性質上分割履行ヲ許ササルモノニシテ必ス目的地マテ旅行シテ後始メテ其債務ノ履行アリタリト云フヲ得ヘシ

第二ハ性質上債權ノ目的カ可分ナルモ當事者ノ意思ニ因リテ不可分債務ト爲スコトアリ例ヘハ金錢ヲ目的トスル債務ハ性質上ニ於テハ無論其目的ハ分割ナレ得ヘキモノナルモ唯當事者ノ意思ヲ以テ特ニ其分割履行ヲ許ササル場合ニ於テノミ不可分債務ト爲ルカ如シ

右述ヘタル不可分債務ニ債權者ノ多數アル場合ト債務者ノ多數アル場合トアリ即チ第四百二十八條第四百二十九條ハ前者ノ場合ニ付テ規定セリ第四百二十八條ニ依レハ債權ノ目的カ其性質上又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ不可分ナル場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ各債權者ハ總債權者ノ爲メニ履行ヲ請求シ又債務者ハ總債權者ノ爲メ各債權者ニ對シテ履行ヲ爲スコトヲ得トアリ蓋シ純理上ヨリ論スルトキハ不可分債務ハ各債權者カ其目的物ノ全部ノ上ニ權利ヲ有スルニ非スシテ唯自己固有ノ權利ノ割合ニ應シテ之ヲ有スルニ過キス故ニ若シ全部ノ履行ヲ得ント欲セハ各債權者一致シテ履行ヲ請求スルハ最モ理論ニ適シタルモノト謂フヘシ然レトモ此ノ如クスレハ各債權者間ニ共同一致ヲ得ルコト能ハサルトキハ全ク履行ヲ請求スルコト能ハサルコトト爲リ實際上極メテ不便ノ結果ヲ來スヲ免レス是ニ於テ法律ハ實際ノ便宜ヲ慮リ斯ル場合ニ於テハ各債權者ハ各全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルコトト爲シタリ之ト同シテ債務者モ亦各債權者ニ對シテ全部ノ義務履行ヲ爲スコトヲ得セシメタリ即チ債權ノ目的不可分ナルヨリ事實上分割履行ヲ爲スコト能ハサ

ルカ故ニ已ムヲ得ス全部ノ履行ヲ請求シ又ハ全部ノ履行ニ應スルコトヲ得セシムルコトト爲シタルナリ

不可分債權者ノ一人カ全部ノ義務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルハ唯其目的ノ不可分ナルカ爲メニシテ自己カ全部ノ權利ヲ有スルカ爲メニ非サルナリ故ニ不可分債權者ハ全部ノ債權債務ニ付テ更改ヲ爲シ又ハ免除ヲ爲スコトヲ得サルモノトス何トナレハ全部ノ權利ニ付テハ之ヲ處分スルノ權能ヲ有セザレハナリ之ニ反シテ各債權者ハ自己ノ有スル權利ノ割合ニ應シテ更改ヲ爲シ又ハ免除ヲ與フルハ固ヨリ妨ナキニ由リ若シ此ノ如キ更改若クハ免除アリタルトキハ債權ハ其債權者ノ部分ニ付テハ消滅シタルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ此場合ニ於テモ法律ハ他ノ債權者ニ全部請求ノ權利ヲ認メタリ何トナレハ債權ノ目的物不可分ニシテ分割履行ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テナリ然レトモ更改又ハ免除ノ爲メニ消滅シタル部分ニ付テハ不當利得ノ法理ニ基キ債務者ニ向ヒテ之ヲ償還セサルヘカラサルモノトス第四二九條第一項

右ノ外不可分債權者ノ一人ノ行爲又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ債權

者ニ對シテ其效力ヲ生セス(第四二九條第二項)不可分債務ニ付テ債權者ニ全部ノ履行ノ請求ヲ許シタルハ之ニ非サレハ其目的ヲ達スルコト能ハサルカ爲メニシテ其債權者相互間ニハ連帶又ハ代理ノ如キ關係ノ存スルモノニ非サルヲ以テ此履行ノ場合ヲ除キテハ債權者ノ一人ノ行為又ハ其一人ニ付キ生シタル事項ヲシテ他ノ債權者ニ對シテマテ其效力ヲ生セシムルノ必要ナキヤ明カナ

第四百三十條ハ債務者カ數人アル場合ニ關スル不可分債務ノコトヲ規定セリ數人カ不可分債務ヲ負擔スル場合ニ於テハ前條ノ規定即チ第四二九條及ヒ連帶債務ニ關スル規定ヲ準用ス但第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ之ヲ準用セス蓋シ數人ノ債務者アル場合ニハ恰モ債權者ノ數人アル場合ニ於テ各債權者カ總債權者ノ爲メニ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ルト同シク各債務者モ亦總債務者ノ爲メニ全部ノ履行ヲ爲スコトヲ得何トナレハ其目的物ハ分別履行ヲ爲スコトヲ得サレハナリ此理由ニ因リ債務者ノ一人カ債務ノ免除ヲ得タル場合ト雖モ他ノ債務者ハ依然全部ノ履行ノ請求ニ應ゼサルヘカラス此第

四百二十九條第一項ニ規定シタルコト及ヒ連帶債務ニ關スル規定ノ條文ヲ準用スル外ハ債務者一人ノ行為ニ付テ生シタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ影響ヲ及ボササルモノトス而シテ連帶債務ニ關スル第四百三十四條乃至第四百四十條ノ規定ハ連帶債務ニ特別ナル規定ナルヲ以テ之ヲ不可分債務ニ準用スルコトヲ得ス此等詳細ノ理由ハ後ニ連帶債務ヲ説クニ當リテ自ラ明カナラン以上述ヘタル不可分債務ノ目的物カ可分物ニ變シタルトキハ不可分債務ハ其性質ヲ變シテ可分債務ト爲ルモノトス例ヘハ或一定ノ地マテ旅行ヲ爲スノ義務ヲ履行セザリシカ爲メニ損害賠償ト變シタル場合ニ於テハ其債務ノ目的ハ可分ノ性質ニ變シタルヲ以テ茲ニ不可分債務ハ可分債務ニ變シ隨テ原則ニ復シ各債權者ハ自己ノ部分ノミニ付キ履行ヲ請求スルコトヲ得又各債務者ハ自己ノ負擔部分ニ付テ履履行ノ責ニ任スヘキナリ(第四三一條)之ヲ要スルニ不可分債務ハ其目的カ不可分ナル場合ニ於テ生スヘキモノナレハ其目的可分ニ變シタルトキハ債務モ亦可分債務ト變シテ當然原則ニ復歸スルモノトス

### 第二款 連帶債務

第一 連帶債務ノ性質  
連帶債務トハ數人共同シテ債務ヲ負擔スル場合ニ債權者カ各債務者ニ對シテ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル債務關係ヲ謂フモノニシテ連帶債務ノ目的ハ畢竟債權者ノ權利ヲ確保シテ債務ノ履行ノ確實ヲ期スルト謂フニ外ナラス恰モ各債務者ノ間ニハ債權者ニ對シテ債務者相互ニ保證ニ立テルト同一ナリ故ニ民法ハ債權擔保ノ一種トシテ債權擔保編中ニ之ヲ規定シタリ唯普通ノ擔保ト異ナルハ連帶債務ハ多數ノ債務者カ各主タル債務者ノ地位ニ立ツモノニシテ普通擔保ノ如ク主タル債務ニ對シテ從タル債務ノ關係ヲ有セザルニ在ルノミ

連帶債務ノ目的ハ唯一ナリ然レトモ債權債務ノ關係ハ多數ナリ即チ各債務者ノ數丈ケ債務關係ノ成立スルモノナリ故ニ債權者ト各債務者トノ間ニハ體様ヲ異ニシタル債務關係ヲ結フコトハ何等ノ妨ナシ例ヘハ連帶債務者ノ一人ニ

### 商法商行為(自第一章至第九章)

法學士 松本 泰治 講述

### 第一章 總則

予ノ是ヨリ講述セント欲スル所ハ商法第三編商行為第一章乃至第九章ニ當レリ商法ニ在リテハ第一編第七章以下ニ之ヲ規定シ第七章ニハ各種ノ商事契約ニ共通ナル規定ヲ掲ケ之ニ題スルニ商事契約ナル名稱ヲ以テセリ然レトモ第八章以下ノ規定モ亦同シク商事契約ナレハ之ニ對シテ第七章ノミテ商事契約ト稱セルハ當ヲ得タルモノト謂フヘカラス而シテ此商事契約ナル名稱ハ西班牙商法及ヒ之カ系統ニ屬セルアルゲンチン「ボリモア」「コロンビア」「オスタリカ」「アマラ」「アルト」「タル」「トタル」「ウラグアイ」等ノ諸國商法並ニ埃及商法カ其

第二編ニ冠セル所ナリ我新商法ハ獨逸新舊二商法及ヒ奧太利匈牙利ボスニア「ヘルツェゴビナ」諸國商法ト同シク商行爲ナル編ヲ設ケ商行爲ノ通則及ヒ各種ノ商行爲ヲ規定セルモノナリ商行爲中最モ重要ナルハ商事契約ナリト雖モ猶ホ此他キ單獨行爲ヲモ包含セサルニ非サルヲ以テ編トシテ題スルニハ商事契約ヨリモ商行爲ナル名稱ヲ以テ優レリトスヘキナリ

商行爲ノ何タルト及ヒ其類別トハ既ニ第一編第三章ニ説明シタルヲ以テ予ノ本章ニ於テ講述セント欲スル所ハ各種ノ商行爲ニ共通ナル通則ナリ然レトモ商事ニ於ケル債權債務ノ關係ハ全然一般私法ト異ナリタル特殊ノ債權法ヲ有スルモノニ非ス原則トシテハ民法ノ一般規定ノ適用ヲ受ケ商法ハ其商事ニ適合セサル場合ニ於テ之カ例外ヲ設ケ又ハ其足ラサル場合ニ於テ之ヲ補充スル爲メニ特別規定ヲ爲セルニ過キス而シテ商法カ率先シテ紹介セル新主義ノ規定ハ漸次民法ノ襲蹈スル所ト爲リ商法カ進ミテ領域ヲ開拓スルト同時ニ其舊領域ノ大部ハ民法ニ依リテ侵略セラレタルコトハ既ニ第一編總則ノ講義ニ於テ商法ノ沿革ヲ説明スルニ當リテ之ヲ述ヘタリ不要式ノ原則ノ如キハ疊ニハ

商法ノ一大特點タリシモ今ヤ商法ノ獨占スル所ニ非ス我新民法ノ如キハ殆ト極端ニ至ルマテ此原則ヲ採用シ唯親族法相續法ニ二三ノ例外ヲ認メタルノミナルヲ以テ却テ商法ニ於テ合名會社合資會社ノ設立ニ定款ノ作成ヲ必要トシ株式ノ申込ハ株式申込證ニ依ルコトヲ必要トシ猶ホ運送狀貨物引換證預證券賣入證券保險證券船荷證券等ニ形式ヲ必要トシ就中手形ニ於テ最モ之ヲ嚴ニセルハ民法ヨリモ一層形式ヲ重セルモノト認ムヘキカノ觀アリ然レトモ上述ノ各場合ハ皆形式ヲ必要トスルノ特別理由アルモノニシテ舊商法カ其第二百七十七條以下ニ於テ五十圖ノ價額ヲ超ユル契約ニ一般ニ書面ヲ必要トセルカ如キモノト同一視スヘキニ非サルナリ要スルニ我民商二法ハ共ニ不要式ノ原則ヲ採用シタルヲ以テ此點ニ於テモ二法間ニ徑庭ナキニ至レルナリ獨逸法ニ於テモ舊商法ハ其第三百十七條ニ於テ商行爲ノ不要式ヲ規定セルモ其新民法ニ於テ同一ノ原則ヲ採レルヲ以テ新商法ハ此規定ヲ削除シ二法同一主義ニ依ルニ至レリ然レトモ此不要式ノ原則ハ英佛二法ノ知ラサル所ニシテ英法ノ「ステート・オブ・プロビデ」如キハ我舊商法第二百七十七條ニ類似セル規定ヲ存

シ佛法ニ於テモ民法第千四百四十一條ハ一般ニ契約ノ要式ヲ規定シ商法ハ第四十九條及ヒ第九條ニ特別規定ヲ爲セルノミニシテ猶ホ一般ニハ證書ヲ必要トセルナリ上述ノ如ク一方ニ於テ民法ハ一般ニ漸次商法ノ領域ヲ侵略セルノミナラス又他ノ一方ニ於テ我舊商法及ヒ獨逸舊商法ノ如キ民法典ノ存在ヲ豫想セスシテ編纂セラレタルモノト反シ我新商法ハ獨逸新商法ト同シク商法ハ民法ニ對スル特別法ナリトノ主義ニ依リ民法ノ規定ト重複シ又ハ故ナクシテ之ト牴觸セル規定ヲ除去セルヲ以テ是ヨリ説明セントスル商行爲ノ通則ハ僅ニ第二百六十六條乃至第二百八十五條ノ二十箇條ニ過キタルナリ之ニ反シテ舊商法ニ於テハ第二百七十四條乃至第四百四條ノ百三十一箇條ノ多キヲ有セルナリ獨逸商法ニ於テモ舊法ノ六十五條ヲ削減シ新法ハ二十九條ノ通則ヲ有セルノミ

以下商行爲ノ通則タル各箇ノ特別規定ヲ述ヘント欲スレトモ猶ホ之ニ先テ商行爲ノ解釋ニ付キ一言セン

(一) 商行爲ノ解釋モ亦民事上ノ法律行爲ト同シク自由解釋ノ原則ニ從ハタル

ヘカラス換言スレハ裁判官ハ當事者ノ表示シタル辭句ニ拘泥スルコトナク其真正ナル意思ヲ捜求セサルヘカラサルナリ舊商法ニハ第二百七十五條ニ「商事契約ノ旨趣ハ當事者ノ眞實及ヒ確定ナル共通ノ意思ニ依リテ定マルモノトス其意思ハ商慣習ト商人タル者ノ當然ノ思考トニ從ヒテ解釋ス可シ」ト明言セルモ新商法ハ之ヲ削除セリ蓋シ新商法ハ新民法ト共ニ此等ノ問題ハ之ヲ學說ニ譲リタルヲ以テナルヘシ舊商法ノ規定ヲ削除シタルヲ以テ之ニ反對ノ主義ヲ採リタルモノト謂フコトヲ得サルナリ獨法ニ於テハ舊商法第二百七十八條ニ商行爲ノ解釋ハ文字ニ拘泥セス當事者ノ意思ニ從フヘキノ規定アリシモ新商法ハ之ヲ削除セリ蓋シ獨逸新民法第三百三十三條カ之ト同主旨ノ規定ヲ爲シタルヲ以テナルヘシ猶ホ佛民法第千五百五十六條モ略同意味ノ規定ヲ爲セリ而シテ此自由解釋ノ原則ハ默示ノ場合ニモ適用スヘキノナリ唯例外タル場合ナキニ非ス例ヘハ第二百七十一條第二百八十七條ノ如キ即チ是ナリ此等ノ場合ニ於テハ「沈黙者ハ承諾シタルモノト看做サル」ト云フ羅馬法ノ原則ニ從フヘキノナリ

(二) 商行爲ノ解釋ハ慣習ニ重キヲ置キテ之ヲ爲スヘキコト亦民事上ノ法律行爲ニ於ケルト同シ而シテ商事ニ於テハ慣習ノ發達民事ヨリモ著シキモノアリ之ヲ稱シテ商慣習(Custom)ト謂フ獨法ニ在リテハ舊商法第二百七十九條新商法第三百四十六條ハ共ニ商行爲ヲ解釋スルニ當リテハ舊商法第二百七十九條新商法第三百四十六條ニ依リテハ舊商法第二百七十九條ノ規定アリトモ我新商法ハ前掲ノ舊商法第二百七十五條ノ規定ヲ削除シタルノミニシテ此ノ如キ新規定ヲ爲テス唯慣習ノ效力ニ關シテハ民法第九十二條ノ規定アルノミニシテ此ノ如キ新規定ヲ爲テス(イ) 商慣習ハ商慣習法ト異ナレリ商慣習法ハ法ナリ當事者ノ意思如何ニ拘ハラスシテ適用セラルル商慣習ハ當事者カ各箇ノ場合ニ於テ之ニ從フノ意思ヲ有スルカ爲メニ效力アルモノナリ然レトモ之ニ從フノ意思ハ明示セラルルヲ必要トセサルノミナラス或ハ極端ノ場合ニハ當事者ハ商慣習ノ内容ヲ知ラス唯商慣習ハ恐クハ公平ナルモノナラントノ臆測ニ因リテ之ニ從フノ意思ヲ有スルカ如キコトアルヘシ(ロ) 商慣習ハ事實上行ハルル區域ニ於テノミ其效力アリ故ニ或ハ全國一般ニ

行ハルルモノト一地方ニ行ハルルモノトノ區別アルヘク或ハ各種ノ商業ニ通シテ行ハルルモノト特種ノ商業ニ付テノミニ行ハルルモノトノ區別アルヘク或ハ大商小商ニ通シテ行ハルルモノト其ニ付テノミ行ハルルモノトノ區別アルヘク又或ハ商人間ニ於テノミ行ハルルモノト非商人トノ間ニ於テモ行ハルルモノトノ區別アルヘキナリ(ハ) 商慣習ハ商慣習法ト異ナレリ商慣習法ハ商法ニ後レテ適用セラルルヲ以テ其認容の規定ニモ違フコトヲ得サレトモ商慣習ハ當事者カ之ニ從フノ意思ヲ有スルトキハ商法ノ認容の規定ヲ變更スルコトヲ得ヘシ(商法第一條及ヒ民法第九二條)以上ヲ以テ本章ニ説明スヘキ事項ノ何タルト及ヒ商行爲ノ解釋方法トヲ説テセリ以下款項ヲ分テ商行爲ニ關スル特別規定ヲ述ヘン而シテ茲ニ一言注意スヘキハ以下ニ説明スル所ハ法文ニ特別ノ明言ナキトキハ商行爲ノミニ適用アルモノニシテ又例外ノ場合ヲ除キテハ其商行爲ハ一方の商行爲タルヲ以テ足レリトスルコト是ナリ(第三條)

第一 代理及委任

商法ニ於ケル代理モ亦民法ノ代理ト同シク學者ノ直接代理ト稱スルモノ即チ代理人ノ意思表示ヲ直接ニ本人ニ就キ效果ヲ生スルモノニシテ羅馬法ノ認メナリシ所ナリ其沿革ノ如キ頗ル趣味アルモノアリ又代理關係ト委任關係トノ混同ハ佛法學者ノ通弊トシテ獨法學者ノ攻撃スル所ナリ「ラバント」ノ如キハ獨逸舊商法ノ規定ト雖モ猶ホ代理權ト委任トノ二語ノ區別ニ曖昧ナル嫌アリトノ非難ヲ爲セリ「ゴールド、ジニミット」商法雜誌第十卷此等ハ研究ノ價值アル問題ナレトモ專民法ノ譯義ニ屬スヘキヲ以テ之ヲ説明セス茲ニハ簡單ニ商法カ民法ノ一般規定ニ對シ如何ナル特別規定ヲ爲セルカノミヲ說カシ獨逸新商法ノ如キハ代理ニ付テハ悉ク之ヲ民法ノ規定ニ讓レルヲ以テ又商法ノ問題ヲ存セタルナリ

(一) 商行為ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトモト雖モ其行為ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス(第二六六條)是レ舊商法第三百四十二條ト同シク共ニ民法第九十九條ノ規定ニ例外ヲ設ケタルモノナリ民法ニ於テハ代理人ノ行

爲カ本人ニ對シテ效力ヲ生スル爲メニハ三條件ヲ要ス即チ第一代理人カ其權限内ニ於テ行為ヲ爲シタルコト第二代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示シタルコト及ヒ第三代理人ノ行為カ法律行為ナルコト是ナリ此第二ノ條件即チ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示スニハ默示ノ方法ヲ要セス默示ノ方法ニ依ルモ可ナリト雖モ若シ此條件ヲ缺キタルトキハ第百條ノ規定ニ依リ相手方カ其本人ノ爲メニスルコトヲ知リ又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ場合ノ外ハ代理人カ自己ノ爲メニスルコトヲ知ルコトヲ得備サル然ルニ商法ニ於テハ商行為ノ代理ニ當リテハ往往本人ノ爲メニスルコトヲ示ササル場合アルヘキニ由リ便宜規定トシテ本條ノ如ク定メタルナリ然リト雖モ其本人ノ爲メニスルモノナルコトヲ知ラザリシ相手方ヲシテ必ズ本人ニ對シテノ請求ヲ爲スヘキモノトセハ之カ爲メ非常ノ損害ヲ被ラシムルコトアルヘキ爲メニ商行為ノ實行ヲ妨グル恐ナルヲ以テ但書ニ於テ相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラザリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズル規定セリ獨逸法ニ於テハ其民法第百六十條條ハ本人ノ名ヲ以テスルコトヲ要セルモ本人ノ名ヲ



以テスルノ意思表示ハ明示セズレバト事情ニ依リ推知セラレタルト分ク  
 ナルコトヲ規定セリ是レ我民法ノ規定ト略同様ニシテ主義トシテハ大ニ本條  
 ノ規定ト異ナルカ如キモ實際ノ適用ニ至リテハ甚シキ差異ナカレヘキナリ  
 (二) 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス(第二六八條)  
 委任代理ハ當事者間ノ相互ノ信用ニ基クモノナラバ以テ委任ニ因ル代理權ハ  
 本人又ハ代理人ノ死亡ニ因リテ消滅スルコトハ羅馬法以來ノ原則タリ然レト  
 モ人事類纂ナル今日ニ在リテハ本人ノ死亡ニ因リテハ當然消滅セザルモノト  
 スルヲ便トス況ヤ主人ノ簡人ヨリモ營業ニ重キヲ置ク商人ニ在リテハ然ル  
 ニ我民法第百一十一條ハ未タ死亡ニ因ル代理權ノ消滅ヲ認ムルノ舊套ヲ脱セテ  
 ルヲ以テ商法ニ於テ例外規定ヲ設ケタルモノナリ獨逸ニ於テハ民法既ニ新主  
 義ニ依レルヲ以テ其商法ハ舊商法第百九十七條ヲ削除シ全ク民法ノ原則ニ  
 從ヘリ我舊商法第百四十六條ハ更ニ進ミテ代理人ノ死亡ニ付テモ本條ト同  
 一ナル主義ヲ採レルモ代理人死亡スルトキハ本人カ之ニ對シテ有シタル信用  
 モ亦隨テ消滅スヘキニ由リ本條ハ此場合ニ於テハ民法ノ原則ニ從フコトト爲

セリ  
 (三) 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セザル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行  
 爲ヲ爲スコトヲ得第二六七條 凡ソ法律行爲ノ委任ヲ受ケタル者ハ委任ノ本  
 旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スヘキコトハ民法第六  
 百四十四條ノ定ムル所ナリ然レトモ敏活ナル行動ヲ要シ且委任者ト受任者ト  
 ノ間ノ信用ノ大ナル商事ニ於テハ特ニ反對ノ意思表示ナキ限ハ委任ノ本旨ニ  
 反セザル範圍内ニ於テ受任者ヲシテ自由ナル行動ヲ爲サシムルヲ以テ各當事  
 者ノ利益ト爲スヲ以テ此ノ如キ特別規定ヲ爲セルナリ舊商法第四百五十九條  
 ハ仲買人即チ新商法ノ所謂問屋ニ付テノミ本條ニ該當スヘキ規定ヲ爲セリ新  
 商法ハ之ヲ擴張シ一般ニ商行爲ノ委任ニ關スル規定ト爲セルナリ  
 第二 時効  
 時効ノ性質種類效力及ヒ其中斷停止等ニ要リテハ悉ク民法ノ講義ニ讓ラン唯  
 茲ニ説明スヘキハ債權ノ消滅時効ノ期間ニ關スル商法ノ特別規定ナリ  
 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ五年間之ヲ行ハサルトキ以テ時効ニ因リテ消滅

(第二八五條) 民法第百六十七條第一項ニ依ル債權ノ消滅時効ノ期間ハ十年ナリ然レトモ敏辨迅速ノ病者商事ニ於テ債權ヲ存留セ不確定ノ狀態ニ在テハ十年ノ取引ノ安全ヲ害ス不購アリ且債權者ニ怠慢アリト云フコトヲ得ル故ニ商行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付キ此ノ如キ特別規定ヲ爲セルナリ舊商法第百四十九條ハ之ヲ六年トキリ

此五年ノ原則ニテ左ノ例外アリ

(イ) 商法中ニ別段ノ定アル場合例ヘテ第三百二十八條第三百二十九條第三百四十九條第三百五十六條第三百七十四條第三百八十三條第四百十七條第四百三十三條第四百四十三條第五百七十五條第五百八十九條第六百十八條第六百十九條第六百三十九條第六百五十一條第六百五十三條第二項等

(ロ) 他ノ法令ニ之ヨリ短キ時數期間ノ定アル場合例ヘテ民法第百七十條乃至第百七十四條ノ如キ是ナリ

第三 留置權

留置權トハ他人ノ物ノ占有者カ自己ノ債權ヲ擔保スル爲メニ其物ヲ留置スル

權利ヲ謂フ留置權ハ之ヲ物權トスヘキカ將テ債權トスルカハ民法法條最モ議論アル問題ナリト雖モ我民法ハ物權編中ニ留置權ノ一章ヲ設ケ其性質效力及ビ消滅原因ニ付キ詳細ナル規定ヲ爲キリ商法ニ於ケル商人間ノ留置權モ亦其規定ニ從ヒテ支障ナキニ由リ唯一特別規定ヲ設キ留置權ノ要件ニ付キ別段ノ定ヲ爲セルノミ獨逸法ニ於テハ民法第二百七十三條ノ留置權ハ其效力極メテ薄弱ナルニ由リ商法ハ第三百六十九條乃至第三百七十二條ニ特別規定ヲ爲キリ故ニ民法ノ留置權ト商法ノ留置權トハ全ク效力ヲ異ニシ後者ハ專ラ買權ニ近キ效力ヲ有セリ然レトモ二者共ニ債權の效力ヲ有スルニ止マルコトニ至リテハ一ナリ沿革上ニ於テハ商人間ノ留置權ハ伊太利ニ於テ第十六世紀ノ頃ヨリ慣習法トシテ認メラレシニ始マリ獨逸舊商法ノ成ルニ及ヒテ始メテ紹介セラレシ所ニシテ獨逸普通法及ヒ普圖法ノ共ニ認メタル所ナリ故ニ羅馬法ノエキツエブチラドーリーグネラーリスニ開源セル民法ノ留置權トハ別物ナリト云フヲ以テ正當トスヘキナリ

商人間ニ於テ雙方的商行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權

者ハ排濟ヲ受タルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行為ニ因リテ自己ノ占有ヲ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得(第二八四條)

本條ノ留置權ノ條件ハ先ニ代理商ノ留置權ト比較シテ大略之ヲ説明シタレトモ更ニ民法一般ノ留置權ト對照シテ其條件ヲ列舉セシムルニ依リテ民法第二八九五條ニ依レハ留置權ノ條件ニ四アリ第一他人ノ物ヲ占有スルコト第二占有ハ不法行為ニ因リテ得タルモノニ非サルコト第三占有シタル物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルコト及ヒ第四其債權カ排濟期ニ達セルコト是ナリ然ルニ本條ノ留置權ニ於テハ次ノ五條件ヲ必要トス

- (イ) 當事者雙方カ商人タルコトヲ要ス 是レ民法ノ規定ト異ナレル第一點ナリ
- (ロ) 債務者ノ所有物ヲ占有スルコトヲ要ス 是レ民法ノ規定ト異ナレル第二點ニシテ民法ニ於テハ物ノ所有權カ何人ニ在ルキヤ問ハサルナリ
- (ハ) 占有ハ債權者カ其債務者トノ間ニ於ケル商行為ニ因リテ得タルモノナルコトヲ要ス 是レ民法ノ規定ト異ナレル第三點ニシテ其物ノ占有ヲ得タル行

爲ハ單ニ不法行為ニ非サルヲ以テ是レトモ少クトモ一方の商行爲タルニ  
 トヲ必要トスルナリ

(三) 擔保セララル債權ハ當事者間ノ雙方的商行爲ニ因リテ生シタルモノナルコトヲ要ス 是レ民法ノ規定ト異ナレル第四點ニシテ民法ノ留置權ニ在リテハ擔保セララル債權ハ占有シタル物ニ關シテ生シタルモノナルコトヲ要ス換言スレハ擔保セララル債權ト留置セララル物トノ間ノ直接關係ヲ要スレトモ商法ニ在リテハ然ラサルコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ本條ノ債權ハ第一ニ雙方的商行爲ニ因リテ生シタルコトヲ要シ第二ニ其商行爲ハ當事者間ニ行ハレタルモノナルコトヲ要ス故ニ債權者ハ讓渡ヲ受ケタル債權ニ付テハ此留置權ヲ有セザルナリ我齋商法ハ民法ト同シク物ト債權トノ直接關係ヲ必要トセリ(商法第三八七條)

(ホ) 其債權カ排濟期ニ達セルコトヲ要ス 是レ民法ノ規定ト同一ナリ

以上ノ諸條件ヲ具備シタルトキハ留置權ヲ生ス然レトモ當事者カ之ヲ生セシメザルコトヲ約シタルトキハ其意思表示ニ從フヘキコトハ勿論ナリ(第二八四



第二款 社員ノ權利

第一項 會社ノ機關ニ干與スル權利

此權利ヲ說明スルニ付テハ先ツ會社ノ機關トハ如何ナルモノヲ謂フヤヲ明カニスルノ必要アリ抑モ合名會社ハ法人ニシテ自然ノ意思ヲ有セザルカ故ニ自然人ヨリ成立スル種種ノ機關ヲ必要トス此機關ニハ四アリ第一會社ノ業務ヲ執行スルコトヲ以テ目的トスル所ノ機關之ヲ執行機關ト稱ス(第二)會社ヲ代表スル機關之ヲ代表機關ト稱ス(第三)會社ノ業務ヲ監督ヲ以テ目的トスル機關之ヲ監督機關ト稱ス(第四)此等ノ諸機關ノ上ニ立テテ之ヲ統括シ重要ナル事項ノ裁決ヲ爲スヲ目的トスル機關之ヲ最高機關ト謂フ第一ノ機關ハ業務執行社員第二ノ機關ハ代表社員第三ノ機關ハ業務執行ノ權利ヲ有セザル社員第四ノ機關ハ總社員ヲ以テ組織ス此四者ハ法律カ合名會社ニ要スル所ノ機關ナリ此他會社カ便宜上支配人其他ノ商業使用人ヲ選任シテ會社ノ業務ヲ執行セシムルコトヲ得ルハ論ヲ埃タス但監督機關ハ時トシテ存在セザルコトアリ即チ各社

員カ業務執行ノ權利義務ヲ有スル場合はナリ業務執行ノ權限ハ法律第六百七十三條ニハ各組合員ハ組合ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得トアリテ之ヲ合名會社ニ準用スルトキハ各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セザルトキト雖モ其業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ルカ故ニ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ勿論業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スル權利ヲ有スルカ如キ觀アリ然リト雖モ業務ノ執行ト業務ノ監督トハ其性質ヲ異ニシ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ之ニ業務監督ノ權利ヲ認ムル必要ナシ株式會社ニ於テ監督役ニ取締役及ヒ支配人ヲ兼任スルコトヲ禁シタルハ即チ此理由ニ出ツ故ニ合名會社ニ於テ各社員カ業務執行ノ權利ヲ有スル場合ニ於テハ業務執行ノ機關アルモ業務監督ノ機關ナキモノト謂ハザルヘカラス各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フコト及ヒ業務執行ノ權利ヲ有セザル社員ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀

況ヲ検査スルコトヲ得ルハ本節第一款第二項ニ說明セラル所ナリ社員カ執行機關及ヒ監督機關ニ干與スル權利ヲ有スルコト之ニ依リテ見ルモ明カナリ  
 會社ノ代表機關タル代表社員ニ付テハ次節ニ於テ之ヲ説明スベシト雖モ茲ニ其要領ヲ示セハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スベキ社員ヲ定メタルトキハ各社員ハ會社ヲ代表スル權限ヲ有ス第六一條參照社員カ會社ノ代表機關ニ干與スル權利ヲ有スルコト此規定ニ依リテ明カナリ業務ノ執行ト會社ノ代表トハ全ク其性質ヲ異ニスル事項ニシテ之ヲ區別スルヲ要ス業務ノ執行ハ會社ト社員トノ間ノ關係即チ内部ノ關係ナルモ會社ノ代表ハ會社ト第三者トノ關係即チ外部ノ關係ナリ會社ノ業務ノ重要ナルモノハ法律行為ナリ而シテ其法律行為ニ因リ會社ヲシテ第三者ニ對シ權利義務ヲ有セシムルニハ其行為ヲ爲ス所ノ社員ニ會社ヲ代表スル權限アルコトヲ必要トス故ニ業務執行ノ權利ヲ有スル社員ハ亦會社ヲ代表スル權限ヲ有スルコト普通ノ狀態ナリ然レトモ時トシテ社員ハ業務執行ノ權利ヲ有スルモ會社ヲ代表スル權限ヲ有セサルコトアルベク又代表ノ權限ヲ有スルモ業務執行ノ權利ヲ有セサルコト

アルヘシ前ノ場合ニ於テ社員カ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲シタルトキハ當然會社ニ對シテ其效果ヲ生セサルモ會社カ之ヲ追認シタルトキハ會社ニ對シテ其效果ヲ生ス又社員ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其法律行為カ直接ニ會社ニ對シテ效果ヲ生セサルハ勿論ナレトモ會社ハ其行為ヨリ生シタル利益ヲ享受スルコトヲ得何トシテモ其行為ハ社員ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ爲サレタルモノナレハナリ但社員カ其行為ノ爲メニ必要ナル費用ヲ支出シタルトキハ之ヲ辨償シ又必要ト認ムベキ債務ヲ負擔シタルトキハ社員ニ代リテ之ヲ辨償スルコトヲ要ス(民法第六五〇條參照是ニ依リテ觀ルモ社員カ代表ノ權限ヲ有セサルモ業務執行ノ權利ヲ有スルトキハ會社ノ爲メニ法律行為ヲ爲シ得ルコト明カナリ況ヤ法律行為ニ非サル行為ヲ爲スニ於テヲヤ後ノ場合即チ社員カ代表ノ權限ヲ有スルモ業務執行ノ權利ヲ有セサル場合ニ於テ社員カ業務ノ執行ヲ爲シタルトキハ會社ハ商法第七十條第四號ノ規定ニ依リテ該社員ヲ除名スルコトヲ得然レトモ其行為ハ代表權アル者ノ爲シタルモノナルカ故ニ第三者ト會社トノ間ニ於テハ完全ニ其效果

ヲ發生ス夫レ此ノ如ク業務ノ執行ト會社ノ代表トハ其性質ヲ異ニス隨テ執行機關ヲ組織スル社員ト代表機關ヲ組織スル社員トカ同一人ナル場合ニ於テモ常ニ區別シテ觀察セサルヘカラス商法ノ規定ニ依リハ業務執行社員ハ定款ヲ以テ若クハ定款ニ定メタル方法ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ要スルモ代表社員ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス(第五六條第六一條參照)其結果トシテ代表社員ハ單ニ總社員ノ同意ヲ以テ解任スルコトヲ得レトモ定款ニ依リテ選任シタル業務執行社員ハ定款變更ノ手續ヲ爲スニ非ザレハ之ヲ解任スルコトヲ得ス但正當ノ事由アルトキハ他ノ社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員ヲ解任スルコトヲ得(民法第六七二條參照)

以上ニ說明シタル三機關ノ上ニ立テテ之ヲ總括シ重要ナル事項ノ裁決ヲ爲ス所ノ最高機關ハ總社員ナリ社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スルコトハ官ハスレテ明カナリ合名會社ノ總社員ハ株式會社ノ株主總會ニ該當スルモ此機關カ行動ヲ爲スニ付テ株主總會ノ如ク法律ニ何等ノ規定ナキカ故ニ總社員カ一場ニ會合シ決議ノ方法ニ依ルコトヲ必要トスルモノニ非スト解スルヲ至

當トス此機關ニ干與スルコトヲ得ル者ハ各社員ナレトモ之ニハ三箇ノ例外アリ第一ハ社員カ就業禁止ノ義務ニ違反シテ自己ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル行爲ヲ爲シタルトキ其行爲ヲ會社ニ引受クル場合第六〇條第二項參照)第二ハ社員ヲ除名スル場合第七〇條參照(第三ハ正當ノ事由アリタルトキ業務執行社員ヲ解任スル場合民法第六七二條參照是ナリ此三箇ノ場合ニ於テ當該社員ノ同意ヲ必要トスルトキハ會社ハ到底其處分ヲ爲スコトヲ得ス是レ法律カ此三場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ事ヲ處決スルコトヲ許シタル所以ナリ此他各社員カ此最高機關ニ干與スル權利ヲ有スル法則ニ對シ例外ヲ爲スカ如キ觀アルモノアリ商法第五十九條及ヒ第六十條第一項ニ規定スルモノ即チ是ナリ社員カ持分ノ讓渡ヲ以テ會社ニ對抗スルニ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要シ又自己若クハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルニ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要ス然レトモ此二箇ノ場合ニハ當該社員ノ申込ニ對シ他ノ社員ノ承諾アルモノニシテ結局持分ノ讓渡又ハ就業的行爲ハ總社員ノ同意アルニ因





社員ハ出資ヲ爲シ會社ノ資産ヲ形成スルモノニシテ會社ハ其資産ヲ以テ事業ヲ經營ス而シテ會社ノ事業ハ社員ノ利益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ會社ノ財産ニ付キ社員ニ或權利ヲ與フルハ甚タ正當トスル所ナリ唯之カ爲メ他人ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス組合ニ於テ各組員カ組合財産ノ分配ヲ受タル權利ハ組合財産カ組員ノ共有財産ナリトシ理由ニ出ツルモノナリ之ニ反シ社員ノ有スル會社財産ノ分配ニ與ル權利ハ法律カ特ニ社員ニ與ヘタルニ因ル是レ二者ノ甚シク異ナル要點ナリ此權利ハ分レテ三ト爲ル(一)利益ノ配當ヲ受タル權利(二)持分ノ拂戻ヲ受タル權利(三)殘餘財産ノ分配ヲ受タル權利是ナリ六〇

第一 利益ノ配當ヲ受タル權利

會社ハ其資本ノ額ニ對スル財産ヲ保有スルコトヲ要シ之ヲ資本維持ノ原則ト云フコトハ既ニ述ヘタル所ナリ若シ財産ノ價額カ資本ノ額ニ超過スルトキハ其差額ヲ利益ト稱ス此利益ハ會社事業ニ因リテ生スルコトナリ或ハ經濟上ノ狀況ノ變動ニ伴ヒ財産ノ價額ノ騰貴シタルニ因リ自然ニ生スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ其利益ヲ社員ニ分配スルハ第三者ノ利益ヲ害スルコトナク之

ニ依リテ社員ノ欲望ヲ満足セザルコトヲ得ルカ故ニ法律ハ社員ニ與テ利益ノ配當ヲ受タル權利ヲ以テ第六百三十四條及第六百三十五條ヲ設ケ

社員カ利益ノ配當ヲ求ムル權利ハ何時發生スルモノナラキ予輩ノ解スル所ニ依レハ此權利ハ會社ノ業務執行機關カ利益ノ配當ヲ爲スヘキコトヲ決定シタルトキニ發生ス株式会社ニハ此點ニ付キ詳細ナル規定アリテ取締役ハ利益ノ配當ニ關スル議案ヲ作りテ監査役ニ提出シ監査役ハ之ヲ檢査シテ報告書ヲ作り株主總會ノ承認ヲ得タルトキ各株主ハ利益配當ノ權利ヲ取得ス合名會社ニ在リテハ此ノ如キ詳細ナル規定ナシト雖モ實際ニ於テ之ノ同様に手續ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一九〇條乃至第一九二條參照商法第二十七條ノ規定ニ依レハ利益ノ配當期ニ於テ業務執行社員ハ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り會社財産ノ狀況ヲ明カニス而シテ會社事業ノ狀態ニ從ヒ利益ノ配當ヲ爲スヘキヤ否ヤ若シ配當スヘキモノトモハ其額ヲ定メテ之ヲ決スルハ其額ノ算定ハ商法第六十七條ノ規定ニ依レハ會社ハ損失ヲ填補シタル後非業利ハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス此規定ハ予輩ノ見ル所ニ依リテ殆ト其必要ナシ抑モ利

益トハ會社財產ノ價格カ資本ノ額ニ超過セルトキ存在スルモノナルカ故ニ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ナルモノアリ得ヘカラス故ニ此規定ハ當然ノ事項ナリ唯通俗ニ於テハ或事業年度ニ於ケル支出ト收入トヲ比較シ收入カ支出ニ超過スルトキハ之ヲ以テ直チニ利益アリタルモノト看ル場合アリ然レトモ道ハ利益ナル語ノ正確ナラサル用例ニシテ探ルニ足ラス會社カ損失ヲ填補セスシテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ即チ利益ナキニ利益アルモノトシテ會社財產ヲ分配シタルモノナルカ故ニ社員ハ不當ニ利得ヲ得タルモノナリ會社ノ債權者ハ之カ爲メニ其利益ヲ害セラル故ニ會社ノ債權者ハ社員ニ對シ之ヲ返還セシムルコトヲ得會社カ不當利得ヲ原因トシテ社員ニ其返還ヲ求ムルヲ得ルハ論ヲ竣タス

又此規定ハ其割合ハ定款ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得若シ定款ニ別段ノ定ナキトキハ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス而シテ民法第六百七十四條ニ依レハ利益配當ノ割合ハ出資ノ額ニ依リテ定マルル原則トス是レ出資ノ額ハ社員カ會社事業ニ干與ス

ル程度ヲ示スモノナルヲ以テ之ニ從ヒテ利益ノ配當ヲ爲スル權當トスルノ利益配當ノ效果如何ト云フニ會社カ適法ノ手續ニ依リ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ其財產ハ社員ノ所有ニ歸スルコト論ヲ竣タス未ダ配當ヲ實施セサル以前ニ在リテモ既ニ利益ヲ配當スヘキコト確定シタルトキハ利益配當ノ目的トスル社員ノ權利ハ既ニ發生シタルモノナルカ故ニ其後會社ニ損失ヲ生スルモ社員ノ此權利ハ其レカ爲メニ影響ヲ受クルコトナシ

第二ニ持分ノ拂戻ヲ受タル權利ハ

合名會社ノ社員ハ各持分ヲ有ス社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ其持分ヲ讓渡シタルトキハ該社員ハ之ニ因リテ會社ヨリ脱退スルコトハ商法第七十三條第二項ノ解釋上疑ヲ容レス故ニ持分ハ社員タル資格ノ要件ニシテ之ヲ有スル者ハ社員タリ之ヲ失フ者ハ社員タル資格ヲ失フ然ラハ持分トハ果シテ何ヲ云フカ是レ一ノ問題ナリ蓋シ會社ハ社員カ互ニ財產ヲ讓出シテ會社ノ資產ヲ形成シ之ヲ資本トシテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トスル一ノ經濟的の制度ナリ會社ノ資產ハ社員ノ出資ヨリ成立ス故ニ社員ハ法律上會社財產ノ上ニ直接ニ物權

ヲ有スルモノニ非スト雖モ出資ヲ爲シ會社ノ資產ヲ形成ストノ理由ニ依リ會社ニ對シ一種ノ財產上ノ關係ヲ有セザルヘカラス此關係ハ金錢上ノ價格ヲ有シ會社財產ノ狀況ニ因リ異動ス此關係ヲ其作用ノ方面ヨリ觀察スルトキ出資ノ義務利益ノ配當ヲ受クル權利退社シタルトキ持分ノ價額ニ應ジテ會社財產ノ一部ノ拂戻ヲ受クル權利及ヒ會社ヲ解散シタルトキ殘餘財產ノ分配ヲ受クル權利ト爲ル故ニ予輩ハ持分ヲ解シテ社員カ其資格ニ於テ會社財產ニ與ル關係ナリト言ハント欲ス

以上ハ予輩カ社員ノ持分ニ付テ有スル見解ナリ今此見解ノ正當ナルコトヲ法文ニ依リテ證明セント欲ス商法第七十一條ニハ社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得トアリ此規定ニ依レハ社員ハ如何ナル種類ノ出資ヲ爲シタル場合ト雖モ退社シタルトキハ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ル規定ノ裏面ニ於テハ出資ヲ爲サザル者ハ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得ス故ニ社員ハ持分ハ出資ヲ原因トシテ發生スルモノナルコト疑ヲ容レヌ次ニ持分ハ拂戻ハ社員ト會社トノ間ノ關係即チ内部ノ關

係ニシテ商法第五十四條ニ依リ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用スヘキモノナリ而シテ民法第六百八十一條ニ依レハ組合員ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財產ノ狀況ニ從ヒ持分ノ拂戻ヲ受ケ且其拂戻ハ出資ノ種類如何ヲ問ハズ金錢ヲ以テ爲サルヘキモノナリ此規定ヲ會社ニ準用スルトキハ社員ノ持分ハ會社財產ノ狀況ニ因リ變動スル所ノ金錢ニ見積リ得ヘキ財產上ノ關係ナルコト明カナリ又各社員ハ商法第五十四條民法第六百七十四條及ヒ第六百八十八條第二項ノ規定ニ依リ出資ノ額ニ應ジテ利益ノ分配ヲ受ケ又會社解散ノトキ殘餘財產ノ分配ヲ受クルコトヲ得是ニ依リテ觀ルニ持分ハ社員カ出資ヲ爲スニ因リテ會社財產ノ分配ヲ受クルニ在ルコト明カナリ

或ハ曰ク持分ハ社員カ其資格ニ於テ有スル權利義務ノ全體ナリト蓋シ論者ノ意ハ財產上ノ權利義務ノ外ニ社員ノ有スル業務執行ノ權利義務若シハ業務監督ノ權利ヲ包括シテ持分ナリトスルニ在リ然レトモ此ノ如ク持分ヲ解釋スル下キハ持分ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ於テ讓渡人ハ之カ爲テ業務執行若シハ業務監督ノ權利義務ニ影響ヲ受ケタル理由ヲ説明スル能ハズ予輩ハ社員

ノ財産上ノ權利義務ヲ以テ社員ノ基本タル權利義務トシ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ以テ社員ノ從タル權利義務トス蓋シ後ノ權利義務ハ社員ノ財産上ノ權利ヲ確保セシカ爲メニ付與セラレタルモノナリ隨テ後ノ權利義務ハ財産上ノ權利義務ニ隨伴ス財産上ノ權利義務ヲ有スル者ハ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有シ財産上ノ權利義務ヲ有セザル者ハ此權利義務ヲ有セズ持分ノ一部ヲ讓渡シタル社員カ其讓渡以後ニ於テモ從前ト同一範圍ニ於テ業務執行若クハ業務監督ノ權利義務ヲ有スルハ即チ此理ニ因ル予輩ノ言ハント欲スル所ハ社員タルカ故ニ持分ヲ有スルニ非ス持分ヲ有スルカ故ニ社員タリ而シテ社員タルカ故ニ業務執行若クハ業務監督ノ權利ヲ有スルモノトス選社員ハ任意ノ退社ト不任意ノ退社トヲ區別セズ持分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得此請求權ハ社員ノ有スル純然タル一ノ債權ナリ故ニ若シ會社カ退社員ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テハ其債權ト社員ノ此權利トヲ相殺スルコトヲ得又此請求權ハ退社員カ金銭其他ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ハ勿論勞務又ハ信用ヲ以テ出資トシタル場合ニ於テモ存在ス但定款ニ別段ノ定

カラス(第二一六條然ラザレバ)判決ニ之ヲ引用スルコト能ハサルノ結果ヲ生ス右辯論ヲ終リ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルニ至リタルトキハ裁判所ハ辯論ヲ閉チテ判決ヲ爲スヘキモノトス

茲ニ説明ヲ要スルハ第二百十一條ノ規定是ナリ即チ本案ノ辯論ノ進行中請求ノ全部若クハ一分ノ當否ヲ確ムル爲メ當事者ノ主張シタル或法律關係ノ存否ニ關シ爭ヲ生シ而シテ裁判所カ本案請求ノ全部若クハ一分ノ當否ヲ裁判スルニ付テハ先ヲ其爭ト爲リタル法律關係ノ存否ヲ判斷セラルベカラサルコトアリ此場合ニ於テモ立證ノ責任アル當事者ハ其他ノ事實上ノ主張ニ於ケルカ如ク單ニ之ヲ證明シテ判決ノ理由ニ於テ判斷ヲ受クルヲ以テ満足スルコトヲ得ヘシト雖モ尙ホ更ニ進ミテ其法律關係ノ成立若クハ不成立確定ノ申立ヲ爲シ特ニ其點ニ付テ確定力ヲ生スヘキ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ其申立ノ性質ハ一ノ確認訴訟ノ提起ニ外ナラザレトモ法律ハ便宜上口頭辯論ノ終局ニ至ルマタノ間ニ本訴訟ニ附帶シテ之ヲ起スコトヲ許シ原告ハ申立ノ擴張トシテ被告ハ反訴トシテ其申立ヲ爲スヘキモノトセリ故ニ之ヲ稱シテ附隨ノ確認訴訟ト

謂フ例ヘハ貸貸借契約ニ基ク家賃ノ請求ニ於テ被告カ貸貸借契約ヲ爲シタルコトナシト争ヒ又ハ消費貸借ニ基因スル利息ノ請求ニ於テ被告カ貸借ノ成立ヲ否認シタルトキハ其貸借關係ノ有無ヲ判斷スルハ本案請求ノ當否ヲ決スルニ必要ナリ是レ即チ法文ニ所謂訴訟ノ進行中ニ争ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ナリ斯ル場合ニ於テ當事者カ自己ノ主張ヲ證明スルニ止ムルトキハ裁判所ハ判決ノ理由ニ於テ其法律關係ノ存否ヲ判斷スルニ過キサレトモ若シ原告若クハ被告カ右ノ規定ニ從ヒ違ミテ其存否確定ノ申立ヲ爲シタルトキハ別ニ主文ヲ以テ此點ノ判決ヲ爲ササルヘカラス隨テ右ノ申立ハ第二百二十二條第二項ノ規定ニ從ヒテ爲スコトヲ要ス

以上ノ説明ニ依リ原告若クハ被告カ附隨ニ確認訴訟ヲ起スニ付テハ條件ヲ具シテ左ノ如シ

一 法律關係ヲ目的物トスルコト

二 其目的物タル法律關係カ主タル訴訟ノ進行中ニ争ト爲リタルコト

三 其法律關係ノ存否カ主タル訴訟ニ付テノ裁判ノ全部若クハ一分ニ影響ヲ及ホスヘキコト

四 主タル訴訟ノ口頭辯論ノ終結ニ至ラサルコト

附隨ノ確認訴訟ノ目的ハ右ニ説明スル如クニシテ第四百十六條ノ規定スルモノニ適セサルヲ以テ第二審ニ至リテハ新ニ提起スルコトヲ得ス又證書訴訟管促手續等ノ目的ニモ適合セサルヲ以テ此等ノ訴訟手續ニ於テモ亦提起スルコトヲ得サルハ勿論ナリ

終ニ一言スヘキコトハ凡ソ被告カ原告ノ請求ニ對スル本案ノ答辯ハ其請求ヲ認諾スルカ或ハ又之ヲ拒絕スルカノ二途アルヲミ而シテ之ヲ拒絕シテ防禦方ヲ提出スルトキハ原告カ其請求ヲ放棄セサル限ハ雖モ通ヘタル所ニ從ヒ辯論ヲ爲ササルヘカラスト雖モ若シ之ニ反シテ原告ノ請求ヲ認諾シタルトキハ最早其後ノ辯論ハ必要ニ非スシテ原告ノ申立ニ因リ直チニ判決ヲ爲スニ至ル何トナレハ認諾ハ原告ノ實體上ノ請求ヲ理由アリトシテ是認スルノ意思表示ナレハナリ又辯論中當事者カ和解ヲ爲シタルトキモ同シク其後ノ辯論ヲ爲サ

ス且判決ヲモ爲スコトナクシテ訴訟ハ終局ニ至ルモノトス今第二百二十二條ノ規定ニ依レハ裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハズ和解ヲ試ムルモノト得辯論終結後ト雖モ尙ホ其再開ヲ命シテ和解ヲ試ムルコトヲ妨ケス蓋シ裁判所ハ一旦訴ヲ受理シタル以上ハ其訴ニ付キ裁判ヲ爲スノ義務アルハ勿論ナレトモ和解ハ時間ト手数ト費用トヲ省キ争ヲ完結スルモノニシテ當事者爲メニハ勿論國家ニモ亦利益ナルカ故ニ之ヲ獎勵スルノ目的ヲ以テ斯ル規定ヲ設ケタルモノナリ而シテ裁判所カ和解ヲ試ムル手續ハ或ハ受訴裁判所自ラ之ヲ爲シ或ハ又其部員中ノ受命判事ニ依リ若クハ遠隔ノ場所ニ於テハ受託判事ニ依リテモ爲スコトヲ得ヘシ受訴裁判所自ラ和解ヲ試ムルトキハ別ニ其旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要セス受命判事若クハ受託判事ニ依リテ和解ヲ試ムルトキニ於テ之ヲ要スルノミ又和解ヲ試ムルニ付テハ當事者自身ノ出廷ヲ命スルコトヲ得但訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受ケタルトキニ非サレハ有效ニ和解ヲ爲スコトヲ得(第六五條第二項和解ノ爲メ當事者自身ノ出頭ヲ命スルコトヲ許シタルハ一ニ和解ヲ容易ナラシムルノ希望ニ出テタルモノナリ而シテ和解

ハ必スシモ訴訟ノ全部ニ限ラス其一分タル或争點ノミニ付テ之ヲ試ムルコトヲ得ヘシ若シ訴訟ノ一分ニ付キ和解ノ調ヒタルトキハ其殘分ノミ訴訟トシテ存續スルハ勿論ナリ何レノ場合ニ於テモ和解ノ調ヒタルトキハ裁判所ハ第三百三十條第一項ノ規定ニ從ヒ之ヲ調書ニ記載シテ明確ニセサルヘカラス

### 第四節 證據調

#### 第一款 總論

##### 第一項 證據

證據ナル語ハ古來立法並ニ學說ノ上ニ於テ其意義一定セス或ハ學證ノ結果タル事實ノ證明ヲ指シ又ハ證明ノ方法ニ用フル材料ヲ指示スルニ用ヒラレ或ハ又右兩様ノ意義ヲ包有スルモノトシテ用ヒラル故ニ證據ノ定義ハ學者ノ下ニ所區區ニ涉レリ今試ニ我舊民法ニ依ルモ證據ナル語ハ最モ廣漠ナル意義ニ用ヒラレタリ即チ一面ニ於テハ判事ノ考覈ナルモノヲ證據ノ中ニ列セリ所謂判事ノ考覈トハ判事ノ心證判斷ニシテ當事者ノ供述係争物件並ニ書類ノ調査法

律ノ解釋、臨檢、鑑定等ニ依リテ生スルモノナリ而シテ又他ノ一面ニ於テハ證據又ハ證人ノ陳述等純然タル證明ノ材料ヲモ證據ト稱セリ且又同法證據中ニハ自白、世評、法律上ノ推定、事實ノ推定ナルモノアリ然レトモ此等ハ皆證據ニ非ストスル有力ノ議論アリ要スルニ證據ノ何タルヤニ付テハ古來議論紛紛トシテ歸一スル所ナシ殊ニ我國ニ於テハ民事訴訟法中證據ニ關スル或規定ヲ設ケタルニ過キスシテ未タ完全ナル證據法ノ制定ナシト雖モ試ニ予ノ正當ナリト信スル證據ノ定義ヲ舉クレハ左ノ如シ

證據トハ係爭事實ノ眞否ニ付キ裁判官ヲシテ心證ヲ得セシムル法定ノ材料ヲ謂フ

以下此定義ヲ分析説明セシム

第一 證據ハ係爭事實ニ關スルモノナリ 凡ソ爭ヲ決スルニハ事實ノ確定ト法律ノ適用トヲ要ス法律ハ裁判所之ヲ知ラサルハカラサルモノニシテ當事者ノ證明スルヲ要セザレトモ各箇ノ係爭事實ニ至リテハ裁判所ノ能ク知ル所ニ非ス此事實ハ裁判所ニ於テ一證據ニ依リテ其眞否ヲ判定セザルヲ得ス但外

國ノ現行法地方慣習法商慣習及ヒ規約ノ如キハ第二百十九條ニ規定スル如ク當事者ノ證明ヲ要スルモノトシ同時ニ裁判所ノ職權調査ヲ許セリ又事實ト雖モ當事者間ニ爭ナキモノハ別ニ證明ヲ埃タス直ニ之ヲ眞實トシテ法律ヲ適用スルヲ得ヘタ其他裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ經令爭ニ係ルモ證明スルノ必要ナシ

第二 證據ハ裁判官ノ心證其モノニ非スシテ心證ノ生スル根據タル材料ナリ故ニ證據ハ原因ニシテ心證ハ其結果ナリ而シテ證據ノ目的ハ心證ヲ得ルニ在リ心證ハ事實ヲ確定スルニ必要ニシテ事實ヲ確定スルハ之ニ法律ヲ適用シテ訴訟ヲ裁決スルニ必要ナリ

第三 心證ノ根據ト爲スヘキ材料ハ必ス法定ノモノナラサルヘカラス我民事訴訟法ニ依レハ證據方法即チ係爭事實ノ眞否ニ付キ裁判官ノ心證ヲ得ル爲メノ材料ヲ提供スル方法ハ人證、鑑定、書證、檢證、當事者本人ノ訊問ノ五トス裁判官ハ此法定ノ證據方法ニ依ラサル材料ヲ採リテ以テ心證ノ根據ト爲スコト能ハス隨テ當事者ハ此以外ノモノヲ證據トシテ提出スルコトヲ得ス故ニ例ヘハ



裁判官カ一人トシテ目撃實驗シ又ハ他人ヨリ傳聞シタルカ爲メニ或事實ヲ知り得タル場合ノ如キハ之ヲ以テ係争事實ノ異否ヲ判断スルノ材料ト爲スコトヲ得ス即チ當事者ハ其裁判官ノ一人トシテノ見聞ヲ直接ニ授用シテ裁判上ノ證據ト爲スコトヲ得ス蓋シ各國ノ法律ニ於テ證據方法ヲ限定スル所以ハ一ハ裁判官ノ專横ナル心證判断ヲ防キ一ハ實益ナキ證據ノ濫用ニ依リテ生スヘキ訴訟ノ遲延ト無益ノ費用トヲ避クルニ在リ

次に證據ノ效力ニ關シテモ古來頗ル疑問ヲ生セリ之ヲ要スルニ立法上ノ問題トシテハ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ證據ヲ舉ケタルトキハ裁判所ハ常ニ其證據ノ法定ノ效力ニ羈束セラルヘキモノトスルカ若クハ之ニ反シテ別ニ法律ヲ以テ證據ノ效力ヲ確定セス之ヲ裁判官ノ判定ニ一任シ裁判官ハ自由ナル判断ニ依リ之ヲ取捨シテ心證ヲ作ルコトヲ得ルモノト爲スカテ決スルニ在リ此點ニ付テハ古來各國立法ノ主義一様ナラス多クハ拘束主義及ヒ自由主義ノ兩者ヲ併用セルモノノ如シ即チ或證據ニ付テハ裁判官ヲ羈束スルモノトシ他ノ證據ニ付テハ其效力ヲ裁判官ノ自由判断ニ一任スル所ノ折衷主義ニシテ舊民法

ノ探ル所ノ如キ即チ是ナリ蓋シ拘束主義及ヒ自由主義ハ各利害得失アリ拘束主義ニ從ヘハ當事者カ係争事實ニ付キ法律ノ規定ニ從ヒテ證據ヲ舉ケタルトキハ裁判官ハ經令心理ニ於テ之ヲ信セサルモ尙ホ強テ之ヲ眞實ナリト認メテ裁判ヲ爲ササルヘカラサルコトト爲ル其結果ハ實體的眞實ニ反スル形式の眞實ニ甘セサルヲ得スシテ爲メニ或場合ニ於テハ狡猾ノ徒ヲシテ利益ヲ得セシムルノ弊害アリ又若シ自由主義ニ從ヘハ裁判官ハ一ニ自由ナル心證判断ヲ以テ證據ヲ取捨シ事實ヲ認定シテ訴訟ヲ判決スヘキヲ以テ右ノ弊害ヲ救フコトヲ得レトモ他ノ一面ニ於テ其專横ナル判断ヲ生スルノ虞ナシトセテ固ヨリ證據ノ效力及ヒ事實ノ認定ヲ裁判官ノ自由ナル心證判断ニ一任スルモ必スシモ實體上ノ眞實ヲ得ルヲ保シ難シト雖モ少クトモ此主義ハ裁判官ヲシテ形式上ノ證據ニ拘泥セスシテ專ラ實體上ノ眞實ヲ得ルニ努メシムル利益アルハ疑ナキヲ以テ世ノ進歩ニ伴ヒテ之ヲ採用スルヲ相當トス故ニ拘束主義ハ昔時ニ行ハレ漸次近世ニ至リテハ自由主義ヲ探ルノ傾向ヲ生シタリ我國今日ノ法律ニ於テハ其何レノ主義ヲ探レルカ證據法ノ明定スル所ナキヲ以テ此問題ヲ決ス



ルハ困難ナレトモ民事訴訟法ノ規定ヲ推論セハ自由主義ヲ採用シタル地  
ト謂フコトヲ得ニシ第二百十七條ニ曰ク裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反  
セザル限リハ辯論ノ全旨趣及ヒ或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ真  
實ナリト認ム可キヤ否ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷ス可シト故ニ裁判官ガ係  
爭事實ノ真否ヲ判斷スルニ付キ形式上ノ證據ノ效力ニ拘束セラレハ特ニ法  
律カ其拘束力ヲ定メタル場合ニ限レルハ明カナリ今キ證據法トシテ斯ル證據  
ノ效力ヲ規定スルモノナキヲ以テ總テ證據ノ效力ハニ裁判官ノ自由ナル  
判斷ニ依リテ定マルモノト謂フコトヲ得ヘシ但或場合ニ於ケル或事實ノ法律  
上ノ推定ハ民事訴訟法中ニモ二三規定セラレ裁判官ハ固ヨリ之ニ服從セザル  
ヘカラスシテ決シテ之ニ反對スル事實ノ認定ヲ爲スコト能ハサレトモ然レト  
モ此法律上ノ推定アル場合ニハ之ニ依リテ事實ハ確定セラレルヲ以テ舉證ノ  
必要ヲ生セス隨テ證據ノ效力ノ問題ヲ生セス即チ是レ裁判官ノ證據ノ效力ニ  
關スル判斷ノ自由ヲ制限シタルモノト謂フコトヲ得ザルナリ

第二項 舉證ノ責任

自己ノ利益ノ爲メニ進ミテ或事實ノ存否ヲ主張シタル場合ニ相手方之ヲ争ヒ  
タルトキハ其主張者ハ之ヲ證明スルノ責任アリ進ミテ或事實ノ存否ヲ主張ス  
トハ固ヨリ相手方ノ主張スル事實ヲ否認スルコトヲ含マス單純ノ否認ニ付キ  
舉證ノ必要ナキハ古今不動ノ定則ナリ唯普通ノ狀態又ハ既ニ證明セラレタル  
事實ニ反スル事實ヲ主張スルトキニ於テ始メテ舉證ノ責任ヲ生ス即チ吾人ハ  
相互ニ義務ヲ負ハサルハ普通ノ狀態ニシテ例ヘハ貸借ニ因リテ義務ヲ生シタ  
リト主張センニハ其事實ヲ證明セザルヘカラス又既ニ貸借ノ事實カ證明セラ  
レタル場合ニ之ニ因リテ生シタル義務ノ消滅ヲ主張スルトキハ同シテ其消滅  
ヲ證明スルノ責任ヲ生ス故ニ此舉證ノ責任ハ原告タルトキハ原告カ被告  
區別ナン隨テ原告カ相互ニ順次舉證ノ責任ヲ負フコトアリ例ヘハ原告カ被  
告ニ使用貸借契約ニ因リテ或物件ヲ貸與シ被告カ其返還ヲ怠レリトシテ返還  
ヲ求ムル訴ヲ起シ先ツ其物ヲ被告ニ貸與シタル事實ヲ證明シ此ニ於テ被告ハ

其物件ハ天災ニ因リテ消滅シタルヲ以テ返還ノ義務ナシトノ抗辯ヲ提出シテ  
 其實ヲ證明シ次ニ原告ハ目的物ハ天災ニ因リテ消滅シタルモ既に被告ハ通  
 滞ニ在リタル後ナレハ賠償ノ責任アリト主張シ其遲滞ノ責アルコトヲ證明シ  
 尙ホ被告ハ遲滞ノ責アレトモ其物件ハ縱令被告カ義務ヲ履行シテ之ヲ原告ニ  
 返還シタリトスルモ同シク天災ニ因リテ消滅スヘカリシモノナリト主張シ其  
 事情ヲ證明スル場合ノ如シ此最後ノ證據擧リテ是ニ依リテ裁判官カ被告ノ主  
 張ヲ其實ナリト認メタルトキハ結局原告ノ敗訴ニ歸スヘク其他右ノ如ク各當  
 事者カ舉證ノ責任アル場合ニ其責任ヲ盡ササルトキハ其者ノ敗訴ニ歸スヘキ  
 ハ勿論ナリ此ノ如ク舉證ノ責任ハ常ニ事實上ノ主張ヲ爲ス者ニ在リテ其主張  
 ノ積極的ナルト消極的ナルトニ因リテ區別ヲ生スルコトナシ又舉證ノ責任ア  
 ル者ハ舉證ノ不能若クハ困難ナルノ故ヲ以テ其責任ヲ免ルルコトヲ得ス故ニ  
 消極的主張ハ舉證ノ必要ナシト謂ヒ若クハ舉證ノ不能ハ其責任ヲ免除スト謂  
 フカ如キハ固ヨリ不當ノ説ト謂ハサルヘカラス  
 右ノ如ク舉證ノ責任ヲ生スルハ争ニ係ル事實ヲ主張スル場合ニ限ルヲ以テ争

ナキ事實ハ勿論左ノ諸件ニ付テモ亦舉證ノ必要ナキモノナリ  
 (一) 法律 法律ハ裁判所ノ知ル所又知ラサルヘカラサル所ノモノニシテ當事  
 者ハ如何ナル法律ノ規定アルヤヲ證明スルノ責任ナシ然レトモ是レ唯内國ノ  
 法律ノミニ付テ謂フヘク外國ノ現行法地方慣習及ヒ規約ノ如キニ至  
 リテハ必ス裁判所ノ知ラサルヘカラサルモノトスルヲ得サルヲ以テ當事者ノ  
 舉證ヲ必要トス但此等ノ事項ハ諸般ノ係争事實ト異ナリ多少公然知り得ヘキ  
 性質ヲ具有シ裁判所ニ於テ之ヲ知ルコト敢テ不能若クハ困難ナルニ非サルヲ  
 以テ當事者ノ證明アルト否トニ拘ハラス裁判所ヲシテ職權上調査スルコトヲ  
 得セシム(第二一九條)故ニ裁判所ハ職權上ノ調査ヲ以テ當事者ノ主張スル外國  
 ノ法律地方慣習法商慣習及ヒ規約ノ存否ヲ知り得タルトキハ其主張ニ付テハ  
 争ノ有無及ヒ主張者ノ立證ノ有無ヲ顧ミス専ラ自己ノ智識ニ依リテ右主張ノ  
 當否ヲ判断スルコトヲ得ヘキモノナリ  
 (二) 法律上ノ推定ニ係ル事實 法律ニ依リテ推定セラレル事實ニ付テハ其主  
 張者ハ舉證ノ責任ナシ而シテ其推定ノ反證ヲ許スモノト否トヲ問ハス唯其推

定事實ハ反證ヲ許ササル場合ニハ絶對ニ争フコトヲ得サレトモ反證ヲ許ス場合ニハ相手方カ其反證ヲ提出シテ之ヲ否認スルコトヲ得ルノ差異アルノモ法律上ノ推定ハ數多アルモ今一二ノ例ヲ示セハ民法第十九條ノ無能力者ノ行爲ノ追認又ハ取消ニ關スル推定同法第四百二十條第二項ノ違約金ヲ賠償額ノ豫定トスルノ推定ノ如キ是ナリ而シテ前者ハ反證ヲ許サス尙モ推定ノ生スル事實存スレハ其推定ノ反證ヲ許サス後者ハ之ヲ許スト雖モ主張者ニ於テ其推定事項ヲ證明スルノ必要ナキハ即チ一ナリ又民事訴訟法第百八十八條第三項ノ取下ノ推定ノ如キモ反證ヲ許ササル法律上ノ推定ノ一ナリ其他同法ノ規定ニ依リ裁判上ノ自白アリト看做スヘキ場合ノ如キモ同然ニシテ其法律上ノ推定ニ因リ自白シタリト看做サル事實ハ之ヲ證明スルノ必要ナシ

(三) 裁判上自白セラレタル事實 凡ソ當事者ノ一方カ裁判上自白シタル事實ニ付テハ相手方ハ舉證ノ責任ナシ故ニ其事實ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査スヘキモノニ非サル限ハ即チ争ナキ事實トシテ裁判所ハ其眞否ヲ調査スル義務ナク之ニ關スル主張ヲ正當ト看做シ直チニ法律ヲ適用スルコトヲ得ヘシ是ニ依

リテ之ヲ觀レハ裁判上ノ自白ハ法律上ノ推定ト同シク證據ニ非スシテ舉證ノ免責ノ原因ナリト謂フヲ妥當トス但人事訴訟ニ於テハ裁判上ノ自白ニ關スル法則ヲ適用スヘカラサル旨ノ規定アリ又此訴訟ニ於テハ舉證ノ責任アル者カ其責任ヲ盡ササルモ裁判所ノ職權ヲ以テ證據調査ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合アリ是レ其事件ノ性質カ公益ニ關スルヲ以テフ故ナリ

(四) 裁判所ニ於テ顯著ナル事實第二一八條 此事實モ亦法律ト同様裁判所ノ知ラサルヘカラサルモノナリ所謂裁判所ニ於テ顯著ナル事實トハ一般ニ知レ涉リタル事實ハ勿論裁判ニ干與スル裁判官カ其職權上ノ調査見聞ニ依リテ確知シ毫モ疑ヲ挾ムヘカラサル程度ニ達シタル事實ヲ總稱ス即チ歷史上著名ナル事實ノ如キハ勿論裁判所カ訴訟ニ關シ特ニ見聞熟知スル事實調査其他訴訟記録ノ記載ニ依リテ明白ナル事實例ヘハ訴狀ヲ提出アリタルコト口頭辯論ヲ開キタルコト又ハ或裁判ヲ爲シタルコトノ如キニ皆裁判所ニ於テ顯著ナル事實ト謂ハサルヘカラサル

終ニ一言セサルヘカラサルコトハ我民事訴訟法ニ或事實ヲ主張スル者ニ就明





刑事訴訟法第十八條ニ於テ證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ許シテ其ノ豫  
 ナ觀ルモ之ヲ推知スルニ足ラザルニ非ズ。又同條ノ條ニ於テハ其ノ豫  
 第三 勾留狀 第三條ノ規定ニ依リテ豫定シタル勾留狀ニ對シテハ其ノ豫  
 勾引狀ノ效力ニ依リ被告人ヲ留置スルハ四十八時間内ニ止マルヲ以テ輕島ノ  
 事件ニ付テハ其時間内ニ豫審ヲ終結シ得ヘシト雖モ事件ニ因リテハ其時間内  
 ニ之ヲ終結スルヲ得ナルヲ以テ其時間ノ外ニ尙ホ被告人ノ身體ヲ拘束スル  
 必要アルヘシ是ヲ以テ豫審判事カ必要ト思料シタル場合ニ於テハ勾留狀ヲ發  
 シテ永ク被告人ノ身體ヲ拘束スルコトヲ許シタリ而シテ豫審判事カ勾留狀ヲ  
 發スルニハ左ノ二箇ノ條件アルコトヲ必要トセリ第七五條ノ規定ニ依リテ  
 一 被告人ヲ訊問シタルコト 但被告人カ逃亡シタルトキハ此限ニ在ラス  
 二 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ性シテ惡料ナル時被告人ノ豫定シタル豫  
 勾留スヘキ被告人ハ勾留狀ニ指定シタル豫定シタル監獄ニ引致スヘシ若シ指定セラ  
 レタル監獄ニ引致スルコト能ハサル時ハ假ニ最近ノ監獄ニ引致スルコトヲ  
 得ヘシ第八二條第一項ノ規定ニ依リテ豫定シタル豫定シタル監獄ニ引致スルコトヲ

右ノ場合ニ於テハ監獄署長ハ被告人ヲ引致シタル者ニ對シ其領收證書ヲ交付  
 スヘシ又在監中ノ被告人ニ對シ豫定シタル勾留狀ハ司獄官更ラシテ其執行ヲ爲  
 タシムルモノナリ(第八二條第二項)トシテハ東ニハハ急要キモノトシテ豫  
 勾留ヲ受ケタル被告人ハ官吏立會ノ上ニ非ザレバ他人ト接見スルコトヲ得ズ  
 又審判ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經タル後ニ非ザレバ之ヲ授受スルコトヲ  
 得ザルモノトス(第八五條)トシテハ豫審判事ハ豫審判事ノ豫審判事ノ豫審判事  
 必要ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ別房勾留ヲ命シ他人トノ接見及ヒ書類物件ノ  
 授受ヲ禁シ又書類物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第八五條第三項)  
 審室監禁廢止以前ニ在リテハ豫審判事ハ審室監禁ヲ命スルコトヲ得タルモノ今  
 日ニ於テハ審室監禁ハ之ヲ命スルコトヲ得ズ(三十二年法律第七十三號)トシ  
 勾留ノ消滅又ハ停止スヘキ場合四ツ如ク左ノ如シ(第三四條)トシテハ  
 第一 免訴ノ言渡アリタルトキ 此場合ニ於テハ被告人ヲ放免セタルヘカラス  
 第二 禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノナラスト思料シタルトキ 此場合ニ於テ  
 ハ何時ニ拘ハラズ豫審判事ハ勾留狀ヲ取消ササルヘカラス是レ勾留狀ヲ發





且保釋ヲ許シタル後豫審判事ニ於テ之ヲ取消スヘキ場合ナキニ非ス即チ左ノ三箇ノ場合はナリ

- (一) 保證金ヲ沒收シタルトキ(第五六條第一項)
- (二) 豫審判事カ必要ナリト思料シタルトキ(檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス)(第一五五條第二項)
- (三) 重罪公判ニ付スルヲ言渡ラ爲シタルトキ(第六八條)

保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ豫審判事所屬ノ裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ裁判所ニ於ケル檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定スルモノナリ(第五八條ノ二)

第二ノ責付ハ保釋ト同シテ被告人ノ拘束ヲ解クニ在リテ雖モ保釋ノ被告人又ハ其法律上代理人ノ請求ニ基クモノナルモ責付ハ豫審判事ノ職權ニ屬スルモノナリ其結果トシテ責付ト保釋トノ間ニ左ノ如キ差異アリ

- (一) 保釋ハ請求ナケレ共之ヲ許スコトヲ得サルモ責付ハ請求ナクシテ之ヲ許

學トハ財政ノ現象ヨリ之カ原則ヲ研究スルノ學問ナリ換言スレハ國家其他ノ公共團體カ其目的ヲ達スルカ爲メニ行動スルニ必要ナル貨物ヲ取得シ管理シ使用スル現象ヲ彙類シテ之カ原則ヲ發見スル學科ナリ財政學ノ定義ハ其研究ノ目的ト爲ルヘキ現象ノ性質即チ財政學研究ノ範圍ノ大小ニ因リ自ラ其間ニ異同ヲ生ス之ヲ大別スレハ收入及ヒ收支ノ適合ヲ論スル外ニ支出ヲモ論究スルト否トニ存セリ

獨逸學派即チ歷史派ハ廣義ニ解釋シ狹義ニ解釋スルハ「アルアーボリユー」スタイン等ヲ以テ其重ナルモノト爲ス而シテ一方ニ「アダム、スミス」バスターアブル等ヲ除ケル英國派ノ多數ハ收入論ニ於テ尙ホ租稅收入ノ外總テノ收入ヲ不問ニ付シ去ル最狹義ノ學派アルト同時ニ一方ニハ收入支出及ヒ收支適合ノ外ニ之ヲ實施スル機關ノ行動即チ豫算問題及ヒ財務行政ニ論及スル最廣義ノ學派アリ

「ルロアーボリユー」カ特ニ國家經費ノ問題ヲ財政學ヨリ除キタル意見ハ財政學範圍研究ノ問題トシテ有名ナルモノナルニ由リ茲ニ其大要ヲ叙述スヘシ氏ヲ説ニ據レハ第一ニ實際上ノ議論トシテハ國家經費ノ問題ハ國家ノ目的ノ變遷ニ



件ヲモノナリ何トナレハ國家支出ノ正當金額ハ國家ニ付與スラレタル職務ノ如何ニ因リテ定マルモノナレハナリ而シテ國家ノ目的ハ時ト處トニ因リ常ニ變遷スルモノナルヲ以テ國家經費ノ方針手段ニ付キ一之ヲ研究スルコトハ事實徒勞ニ屬スルモノナリトシ第二ニ理論上ノ議論トシテハ國家ノ欲望ハ果シテ如何ナルモノナルヤ又如何ニアルヘキヤヲ研究スルハ財政學研究ノ範圍ヲ脱シテ政治學若クハ行政學ノ範圍ヲ僥スモノナリ財政學ノ本領ハ如何ニスレハ最良ノ方法ヲ以テ且最モ少キ人民ノ損失ヲ以テ最モ多ク國家ノ欲望ヲ充タシ得ルヤニ在リ經費ノ性質當否ヲ論スルハ財政學ノ本領ニ非サルナリ今若シ建築家ヲ備ヒテ家屋ヲ築造セシムルモノトセンカ其營造物カ其建築ヲ命シタル人ノ地位財產ニ相當セルヤ否ヤヲ研究スルハ建築家ノ職掌ニ非スシテ最少ノ費用ヲ以テ最モ堅固ニ便宜ニ且美觀ニ其家屋ヲ築造スルハ建築家ノ職務ナリ財政學者ニ在リテモ敢テ之ト異ナルコトナシ財政學家ハ固ヨリ國家ノ經費ノ過大ニ失スルヲ顧ミサルニ非サレトモ其真正ノ任務ハ如何ニスレハ國家カ收入ヲ徵收シ得ルヤヲ究シ以テ僑人ノ利益ヲ觀察スルニ在リト云フニ在リ

氏ノ第二ノ論旨ニ對スル消極的ノ非難ハ論旨自體ニ於テ既ニ自殺セル點ニ在リ何トナレハ收入アルカ故ニ支出アリ收入ト支出トハ互ニ因果ノ關係ヲ有スルモノナリ支出ニシテ國家ノ目的ニ伴ヒ變遷常ナラス之ヲ詳論スルコトハ事實ニ於テ徒勞ニ屬スト爲セハ收入ニ對シテモ亦均シク同一ノ論結ニ歸セスハ非ス今一步ヲ譲リテ支出ノ問題ハ收入ノ問題ト異ナリテ十分ナル演繹法ヲ應用ヲ許ササル點ニ於テ區別ヲ立ツルモノト爲スモ少クトモ官有財產ニ於テハ亦同一ノ非難ヲ受ケスシハ非ス次ニ氏ノ第一論旨ニ對スル積極的ノ非難ハ支出ノ研究ハ徒勞ニ屬スルモノニ非サルコト是ナリ時ト處トニ因リテ變遷ノ常ナラサルハ唯リ國家ノ支出ニ止マラス人類ニ關スル社會ノ現象ハ宗教ニ政治ニ道德ニ法律ニ經濟ニ總テ形而上ノ社會的現象ハ皆時ト處トニ因リテ變遷常ナラサルモノナレハナリ而シテ總テ社會ノ現象ハ其間ニ因果ノ關係ヲ有シ之ヲ一貫セル原則ノ存セサルナシ隨テ國家ノ支出ヲ左右スル國家ノ目的其モノハ時ト處トニ因リテ多少ノ異同ヲ見ルヘキモ既ニ前章第二節財政上政府行動ノ範圍ノ下ニ於テ述ベタルガ如ク其大體ニ於テハ自ラ歸ニスル所ナクシ

ハ非ス唯リ財政ノ支出ニ關スル現象ニノミ之カ除外例ヲ設ケルハ理論ニ於テ全然矛盾ヲ免レサルモノナリトス  
第二ノ論旨モ亦自ラ多少ノ真理ヲ包含セサルニ非ス然レトモ先決ノ問題トシテ何カ故ニ財政學者ヲ以テ建築家ト同一視スヘキヤラ決ヘスンハ非ス今事實上ヨリ觀察スレハ財政上收入ノ衝ニ當ル者ハ又支出ノ衝ニ當ル者ニシテ建築家ト建築ヲ依託スル者トハ其主體ヲ異ニスルモノナリ若シ財政上收入ト支出カ同一ノ主體ニ依リテ行ハルルカ如ク建築家ト其建築ヲ依託スル者トカ同一ノ主體ナリト假想スレハ其建築家ハ自己ノ家屋ヲ建築スルニ際シ其建築ニ要スヘキ支出ノ如何ヲ顧ミサルノ要ナキヤ蓋シ收入ト支出ノ關係ノ密接ナルハ上述スル所ノ如シ唯財政學者ノ國家ノ支出ニ付キ研究上制限ヲ受タルハ其研究ノ材料ノ性質ニ存スルノミ殊ニ支出ノ或一部ハ常ニ收入ノ或一部ト互ニ特種ノ關係ヲ有スルコト多ク支出其モノノ性質ヲ知ルニ非スンハ又收入ノ性質ヲ解釋スルコト能ハサルモノ歟シト爲サス  
財政家ハ一方ニ於テハ國家ノ必要ナル財源ヲ求メテ其欲望ヲ満足セシムルト

同時ニ一方ニ於テハ國家經費ノ必要ノ有無及ヒ輕重ヲ識別スルノ要アリ何トナレハ國家ハ簡人ニ對スル最少ノ損失ノミヲ目的トスヘキニ非ス國家ノ支出ハ一定不變ノモノニ非スシテ一方ニ於テハ國民ノ負擔力ノ大小ハ間接ニ支出其モノノ多少ヲ支配スルモノナレハナリ單ニ國民ニ對スル損失ヲ巧ニ分配シテ之ヲ最小額ニ削減スルノミヲ以テハ未タ財政家ノ能事終レルモノニ非ス國家ノ目的ヲ達スルカ爲メ巧ニ支出ト收入ト平均セシムヘキコト是レ其本分タリ隨テ問題ノ餘地ハ經費其モノヲ論究スルノ可否ニ非スシテ其論究ノ範圍ノ如何ニ存ス私見ニ依レハ國家ノ職務即チ國家ノ目的ノ如何ヲ研究スルハ固ヨリ財政學ノ本領ニ非ス故ニ茲ニハ財政學ノ原理ノ發見ヲ根本ノ標準トシテ國家ノ支出ノ諸綱目ヲ研究シ此等ノ綱目ヨリ生シ來ル各種ノ觀念及ヒ附隨ノ財政問題ニ付キ國家ノ支出ヲ論究スルヲ以テ妥當ナリト信ス  
之ヲ要スルニ財政學ノ職分ハ國家並ニ其他ノ公共團體カ其必要ナル貨物ノ取得管理及ヒ之カ支出ヲ爲ス各種ノ現象ヲ彙類シテ之カ利害得失ヲ研究シ以テ其財政ノ現象ニ通スル原理ヲ發見スルニ在リ而シテ尙ホ附隨ノ職分トシテ其

原理原則ニ依リ財政上ノ實際問題ヲ學理上ヨリ解釋スル所トアリテ派ノ學者  
 方應用財政學ト稱セルモノ是ナリ其學理上ノ必要ニシテ趣味アル問題ナレトモ  
 財政學ノ範圍ヲ其主體ヨリ論究スルコトハ必要ニシテ趣味アル問題ナレトモ  
 近時國家ノ外ニ公共團體ヲ認ムルコトハ學說ノ既ニ一致スル所ニシテ唯餘ス  
 所ハ複雜國家ニ對スル問題ト公共團體ノ性質及ヒ範圍ノ問題トヲ存スルノミ  
 然レトモ此等ノ問題タルヤ國法学又ハ行政學上ノ問題ニシテ茲ニ之ヲ論究ス  
 ルノ要ヲ見ナルカ故ニ後ニ單ニ公共團體ノ財政即チ所謂地方財政ナルモノニ  
 付キ別ニ一言スル所アルヘシ

注 財政ノ主體ノ範圍ニ付テハ單ニ國家ノ外複雜國家及ヒ國家ノ下ニ在ル  
 公共團體ヲモ認ムルニ至リシハ近時學說ノ一致スル所タリ但廣義ノ複雜國  
 家及ヒ公共團體ノ性質及ヒ範圍ニ付キ多少問題ノ餘地ナシトセズ例ヘハ事  
 實上ノ聯結ヲ爲セル團體全部ヲ一ノ財政ノ主體ト視ルヘキヤ又國法上ノ聯  
 結即チ聯合國家ノ場合ニハ各聯邦ノミ國家ナルヤ聯合國家ノミ國家ナルヤ  
 聯邦及ヒ聯合國家カ共ニ國家ナルヤ又國際法上ノ聯結ニ於テ一時ノ聯結即

チ攻守同盟ノ如キハ財政ノ主體ト視ルヘカヲサレモ國家聯合ノ場合ノ如キ  
 國家聯合其モノハ財政ノ主體ト視ルヘキヤ未タ十分ノ研究ヲ與ヘシ學說ア  
 ルヲ聞カス又彼ノ公共團體ニ付テハ公共團體其モノノ性質ニ付キ未タ一定  
 ノ學說ナキノミナラス一般ニ認メラルル所謂公共團體ナルモノハ總テ財政  
 ノ主體ト視ルヘキヤ或ハ地方自治團體即チ府縣市町村ノ如キ行政區畫上ノ  
 地域ヲ有スルモノノミニ限ラルヘキヤ否ヤ此等ノ問題ハ總テ行政法上及ヒ  
 財政學上一定セル所アルナシ

私見ニ依レハ此等ノ問題ニ付キ如何ナルモノヲ國家ト視ルヘキヤ將タ公共  
 團體ト視ルヘキヤハ純然タル國法学又ハ行政法上ノ問題ニシテ財政學上此  
 等ノ問題ニ牽聯シテ其範圍ヲ消長セシムルモノニ非ス財政學上ニ於テハ若  
 シ一ノ主體アリテ先ツ出ツルヲ計リテ入ルヲ制スヘキ欲望ノ満足ヲ目的ト  
 シ又權力關係ノ行使ニ因リ收入ヲ得ルノ手段ヲ取ルモノアリテシニハ毫モ財  
 政ノ主體トシテ之ヲ論究スルヲ妨ケス必スシモ其名義ノ果シテ國家ナルヤ  
 又公共團體ナルヤ否ヤニ依リテ拘束セララルノ要ヲ見サルナリ

### 第二節 財政學ト他ノ學科トノ關係

財政學ト他ノ學科トノ關係ヲ述ヘンニハ先ツ財政學其モノノ地位ヲ觀察セム  
 シハ非ス財政學ノ分科ニ付テハ古來學說多岐ニ分ルルモ財政學ヲ以テ獨立ノ  
 學科ト爲スモノト然ラサルモノト二者ニ大別スルコトヲ得ヘシ財政學ヲ以  
 テ獨立ノ學科ナリト主張スル學者ノ主ナル者ハ「ルイジ・ゴッザ」(イ・エー・ベルヒ)  
 (獨ニ「バスターブル」)英ヲ以テ其重ナルモノトス財政學ヲ獨立ノ學科ニ非スト爲  
 ス者ハ又別レテ二ト爲ル(一)ハ財政學ヲ以テ行政學ノ一部ト爲スモノニシテ其  
 重ナル論者ヲ「スタイン」ト爲ス(二)ハ財政學ヲ以テ經濟學ノ一部ナリト爲スモノ  
 ニシテ更ニ分レテ甲「純正經濟學」ノ一部ト爲スモノト乙「純正及ヒ應用」ノ二經濟  
 學ト對立スル經濟學ノ一科ト爲スモノト(丙)應用經濟學ノ一部ト爲スモノトア  
 リ甲ノ說ヲ採ル者ハ財政學ヲ以テ最狹義ニ解釋スル英國派ノ多數ニシテ租稅論  
 又ハ公債論等ノ名目ノ下ニ純正經濟學ノ一部トシテ論究セラルルハ「展見ル所  
 ナリトス」乙ノ說ヲ採ル者ハ「ヘインリッヒ」ヲ以テ其重ナルモノトス丙ノ說ヲ

採ル者ハ現時經濟學者殊ニ獨逸學派ノ均シク認ムル所ナリ然レトモ此三種ノ  
 區別ハ事口時代ノ變遷ニ基ク分類ニシテ今日ニ於テハ殆ト丙說ヲ認ムルモノ  
 致セリ  
 然レトモ行政學ノ一部ナリト論スル者ハ國家行政ノ行動其モノト之カ行動ニ  
 要スヘキ貨物ニ關スル行動トヲ混同セルモノニシテ今日ニ於テハ又此說ヲ唱  
 フル者ナシ而シテ財政學ヲ以テ獨立ノ學科ナリト爲ス者モ財政學其モノト獨  
 立如何ニ非スシテ寧ロ經濟學其モノト觀念ノ如何ニ存セリ現ニ「バスターブル」  
 氏ノ說ニ依ルモ既ニ廣義ノ經濟學ニ於テ財政學ヲ包含スヘキコトヲ認メ唯廣  
 義ノ經濟學其モノトハ「羅漢ナル社會學ト政治學ト混同セルモノナリト明言セ  
 リ蓋シ財政學ハ他ノ學科ノ補助材料ヲ受クルハ明カナル事實ナリト雖モ其最  
 モ多ク根據トスル所ハ純正經濟學ノ原理ニ存ス是レ均シク貨財ニ關スル現象  
 ニ付キ研究スル學科ナレハナリ若シ財政學ヲ以テ經濟學ノ一部ト爲共前ハ  
 トモ「總テノ應用學ハ皆獨立ノ學科ト謂ハス」ハ非ス今財政學ハ經濟學ノ一  
 部ナリト謂フハ之ヲ他ノ經濟學上ノ分科ト混一シテ論究スヘシト謂フニ非ス

學科ノ系統ニ付テ其所屬ヲ明カニスルニ在リ所謂區分ノ原則ニ反スルモノ有  
 非ナルナリ。國民學ノ書肆立ノ學科ノ關係ニ在リテハ國民學ノ範圍ニ一  
 以上述ブル所ニ據リテ財政學ト最モ密接ナル關係ヲ有スルモノハ純正經濟學  
 ト行政學ニ在ルコト明カナリ蓋シ財政ハ國民經濟上ノ手段方法ヲ以テ國家ノ  
 行政ノ目的ヲ達スルモノナリ換言スレバ財政ハ其目的ハ國家ノ行政ニ依リテ  
 定マリ其手段方法ハ國民經濟上ノ能力ニ依リテ支配セラレモノナリ何トカ  
 以テ國民ノ所得ハ國家ノ需要換言スレバ國庫ノ收入支出ニ對シ之カ限度ヲ定  
 ムルモノナレハナリ財政ハ出ヅルヲ計リテ入ルヲ制ス然レトモ國民力負擔力  
 ヲ超過スル場合ニハ實際上其ニ之カ收入ヲ強制スルコト能ハサルモノ  
 ニシテ財政ハ常ニ國民經濟ノ狀況如何ヲ根底トシテ立ツモノナリ今支出ニ付  
 テ觀レハ社會ノ統治機關タル國家ノ支出ハ社會ノ消費ノ一部ニシテ國家ノ支  
 出ニ關スル原則ハ純正經濟學ニ於ケル消費論ニ依ラサルヘカラス白耳義ノ「ラ  
 ベー」氏カ國民經濟ノ消費ノ一部トシテ財政ヲ論究スル所以也モ亦此理ニ  
 存ス其他國家カ官有財産ノ管理官業ノ經營ノ如キハ純然タル私法上ノ關係ニ

シテ常ニ需要供給ノ原則ニ鑑ミ最少ノ勞費ニ依リ最大ノ效果ヲ取得スルコト  
 ヲ目的ト爲スモノナリ租稅ニ至リテハ租稅制度ノ可否租稅課課ノ原則租稅ノ  
 富ノ生産分配ニ及ホス制限影響等皆國民ノ所得富ノ分配ニ關スル原則ニ依ラ  
 スシハ非ス其他公債ノ募集管理償還等ノ如キ又純正經濟學ニ屬スル信用金融  
 ニ關スル原則ニ支配セラレルコト甚タ多シト爲ス。以上述ブル所ヲ反對ノ方面ヨリ觀察スレバ常ニ經濟上ノ現象ヲ左右スルモノ  
 ハ國家カ財政上ノ行動ニ存セリ即チ租稅公債ノ徵收募集官業ノ經營等ハ一國  
 ノ富ノ生産分配ニ對シ非常ナル勢力ヲ有スルモノニシテ經濟學ト財政學ハ必  
 ス併セテ之ヲ研究スヘキ所以ヲ明カニスルモノナリ。一方ニハ財政學ハ必  
 此ノ如ク財政學ハ經濟學ト密接ナル關係ヲ有スルト共ニ一方ニハ行政學ハ必  
 ハ政治團體ノ行政行為ノ一ナルカ故ニ行政學及ヒ政治學ト密接ノ關係ヲ有ス  
 ルト共ニ又之カ行政行為ノ準繩タルヘキ法規ノ制定及ヒ廢止ニ關シ法律學ト  
 離ルヘカラサル關係ヲ有ス此他尙ホ財政ニ關スル歴史統計等尙モ社會ノ現象  
 ニ付キ攻究スル學科ハ總テ財政學ノ補助學ト看做サルルモノナリトス

### 第三節 財政學ノ歴史

財政學ハ之カ研究ノ目的タル財政其モノニ附隨シテ發達シ即チ國家ノ觀念ノ變遷國家行政ノ範圍性質ノ進化ニ伴ヒテ變遷スルモノナリ之ヲ經濟學ノ一科トシテ觀レハ經濟學史ト全ク其沿革ヲ一ニシ又總テ社會學ノ歴史ト相消長スルモノナリ今財政學ノ沿革ヲ時期ニ依リテ分類スレハ之ヲ左ノ四期ニ分ツコトヲ得ヘシ

- 第一期 古代ヨリ中世ニ亙リテ財政學ノ觀念カ未タ存在セテ莫ク時代一團
- 第二期 第十六世紀ヨリ第十八世紀ニ亙リテ財政學ノ觀念發生セシ時代
- 第三期 第十八世紀ノ後半ヨリ第十九世紀ノ前半ニ亙ル財政學時代
- 第四期 第十九世紀ノ後半ヨリ今日ニ至ル最近財政學ノ發達時代

#### 第一款 第一期ノ財政學史

政治團體カ生存シテ活動スル以上ハ財政ノ存在スヘキコト固ヨリ當ヲ決タス

殊ニ羅馬帝國ノ財政制度ノ組織ノ如キ比較的完備セシモノナリト雖モ古代ニ在リテハ財政ニ關スル問題ハ唯政治法律道德等ノ諸論ニ附帶シテ時ニ學者カ其一端ヲ論述セルニ過キス隨テ財政ニ關スル論片ニシテ特ニ茲ニ舉グルニ足ルモノハ上古ヲ通シテ漸クゼンホシ「アゼン」國ノ收入ニ關スル小著ヲ見ルニ過キタルナリ蓋シ古代經濟學ノ發達カ阻害セラレシ事由ハ又均シク財政學ノ發生ヲ抑制セシモノニシテ國家ヲ以テ人類ノ目的トセル所謂國家萬能主義ノ行ハレシ時代ニ在リテハ租稅ノ公平問題奴隸制度ノ問題獨占專業ノ問題信用ノ問題ノ如キハ又之ヲ研究スルノ必要ナク商工業ハ政治道德宗教各種ノ方面ヨリ監視セズレ産業ノ自由ハ認メラレスシテ個人ノ財產ノ安全國家ニ對スル負擔ノ公平之ヲ期スルニ由ナク公共ノ收入ト信用トヲ増進セシムルニ經濟制度ノ發達ニナリシ時代ニ在リテハ經濟學財政學ノ發達ヲ見ザリシハ固ヨリ其理ニシテ彼ノ羅馬ノ如キ所謂掠奪經濟ニ依リテ經濟ヲ自由ヲ驅逐セリ所以ノモトハ又其滅亡ヲ來セシ唯一ノ原因タリシナリ

古代戰爭ニ因リ取得シタル貨物又ハ奴隸ト附庸國ヨリ納付スル貨物トヲ以テ  
 國家ノ財源ト爲セシ制度ハ中世封建ノ興隆ト共ニ漸次其跡ヲ絶テ宮廷即チ政  
 府ノ財政ハ王室即チ官有ノ財產ヲ以テ支フルヲ原則トシ時ニ所屬ノ臣民ヨリ  
 貨物ヲ徵收シ又ハ借受ケテ一時收支ヲ適合ヲ圖ル等其財政ハ簡單ナルニト又  
 學者ノ注意ヲ惹クニ足ラス中世紀暗黒ノ時代又通シテ財政學モ亦他ノ諸學科  
 ト均シク其發生ノ機運ヲ抑壓セラレタリ然レドモ中世ノ末葉ニ當リ封建制度  
 破壊ノ種子タリシ獨逸並ニ伊太利ノ自由都市ニ於テハ市民ノ合意ニ出ツル課  
 稅ノ制度起リ商工業ノ發達ニ伴ヒ財政ノ整理監督ノ實舉リタルモノノ如シ故  
 ニ或一派ノ學者ノ如キハ當時ノ自由都市ヲ以テ財政制度ノ權輿ト爲セリ又此  
 時代ノ王國ニ於テハ官有財產管理ノ必要上所屬ノ官吏ヲシテ財政ノ事務ニ付  
 キ研究スル所アラシメタリ是レ固ヨリ財務行政ノ事務ノ手續ニ入リ關係ハモ  
 ノニ過キナリシト雖モ官房學派ハ此ニ濫觴セルモノナリトス茲ニ學々ハ一風  
 變ニ來リ

第一款 第一期ノ財政學史

第十六世紀ノ後半ニ當リ財政ハ始メテ學者ノ注意ヲ喚起シ理論上ヨリ研究セ  
 ラルルニ至レリ蓋シ歷史上中世史ヨリ近世史ニ移リシ時期即チ封建制度改廢  
 セラレ中央集權ノ興隆セシ際ニ方ヲテハ總テハ學科ハ其形而上ナルト形而下  
 ナルトヲ問ハス皆其影響ヲ被リテ新正面ヲ開キ經濟上ヨリ觀察スレハ經濟上  
 ノ實力ハ地主ノ手ヨリ資本家ニ移轉シ貨物經濟時代ヨリ貨幣經濟時代ニ變遷  
 セル時期ナリトス蓋シ封建制度ノ敗滅ニ伴フ君主專制國ノ興隆ハ國家ノ觀念  
 ニ一大變化ヲ來シ宗教ノ力ニ由リ血族ノ關係ニ由リ結合セシ國家ハ一方ニハ  
 其團體ノ膨脹ト團體自體又ハ相互ノ關係ノ複雜ナルニ伴ヒ一方ニハ其臣民ノ  
 權利義務カ漸次承認セラレルト共ニ國家行政ノ範圍及ヒ性質ハ根本ヨリ一新キ  
 ラレ國家ノ目的要素ト視ルヘキ軍務司法ノ諸權ヲ統轄シテ進ミテ內務行政ノ  
 範圍ハ著シキ膨脹ヲ見ルニ至ヒリ隨テ從來ノ財源ハ以テ國家ノ經費ヲ支フル  
 ニ足ラス君主ノ主權ニ基ク收入ノ外間接直接ノ諸稅國債等新ニ施行セラレテ  
 財政ノ現象ハ俄ニ複雜ヲ極メ其行動ハ政府人民ニ於テ直接ニ且重大ナル利害  
 關係ヲ生スルニ至リシト同時ニ亞米利加ニ於ケル銀鑛ノ發見ニ伴ヒ貨幣經濟



ノ發達ハ實際上財政ノ管理ニ於テ理論上財政ノ研究ニ於テ夫ナル便宜ヲ得ルニ至リシヲ以テ財政ノ面目ハ形式ニ於テモ亦一新セラレタルニ至レリ第二期ニ於ケル財政學者ハ主トシテ佛蘭西及ヒ獨逸ニ輩出シ伊太利及ヒ英吉利ニ於テ又多少斯學ニ付キ研究セシ者ナシトモ今圖別ニ從ヒテ財政學ノ沿革ニ付キ之ヲ大要ヲ叙述スヘシ

第一佛蘭西 此時期ニ於テ最モ有名ナルハ「ボードン」ニシテ紀元千五百七十六年「バトリック」子ル著書ニ於テ共和的政治論ヲ爲シ其第六編第二章ニ於テ官有財産輸出入税直接税等六種ノ綱目ノ下ニ國家ノ收入特ニ租税賦課ノ問題ニ付キ論究セリ即チ輸出入税ニ付テハ粗製品ニ高キ輸出税ヲ課シ精製品ニハ高キ輸入税ヲ課シテ以テ內國産業ノ隆昌ヲ期シ直接税及ヒ間接税ニ付テハ直接税ハ負擔ノ能力ニ比例シテ成ルベク必要ノ場合ニ制限スヘキコトヲ主張シ殊ニ當時ノ貴族僧侶等ノ附屬カ免稅權ヲ有スルコトヲ批難シテ戶籍等ノ整理ヲ圖テ公平ニ普及スヘキコトヲ論シ間接税特ニ奢侈税ニ付テハ氏ハ大ニ惡慮スル所アリ「ボードン」所論ノ一般財政學殊ニ獨逸ニ於ケル官房學派佛蘭西ニ

於ケル重商主義ニ與ヘシ功勞ハ著大ナルモノトス

第十七世紀ノ經濟殊ニ財政上ノ現象ハ重商主義ノ反影ニシテ所謂「コルベア」時代千六百六十一年乃至千六百八十三年ノ財政策ハ歐米ヲ風靡シ國家ノ富強ハ政府收入ノ大小ニ非スシテ民力ノ強弱ニ在リトシ大ニ商工業ノ獎勵ヲ圖リ國ノ貧富ハ一ニ金銀ノ多少ニ因ルモノトシ保護貿易ノ干渉政策ヲ行ヘリ此派ニ於テ學者トシテ有名ナルハ「アントワンド・モンクレンアン」ニアントニオセル「トーマス・マン」等ト爲ス然ルニ重商主義時代ニ於ケル佛蘭西ハ國家ノ權力隆盛ヲ極メ國威歐洲ニ振フニ拘ハラヌ一方ニ國民ハ皆租稅賦課ノ加重又ハ不公平ニ依リテ悲境ニ陥リ重商主義ニ反對ノ聲ハ漸次學者間ニ起ルニ至レリ其有名ナルモノヲ「ボーン」ノ十分ノ一稅論トス即チ氏ハ當時佛蘭西人民ノ慘況ヲ說キテ重商主義ヲ攻撃シ先ニ租稅賦課ノ論據ヲ政府保護ノ報酬ニ在リトシ十分ノ一ノ單位所得稅ヲ以テ總テノ階級ヲ一貫スルト共ニ一方ニハ貴族僧侶ノ特權權ヲ廢止シ一方ニハ下級人民ノ所得稅免除ヲ主張セリ氏ハ第二期トシ第三期トシ連續タルヘキ人ニシテ「ボーン」ト共ニ單一稅論者ノ先鋒トシ



ヲ重農學派ニ與ヘタル影響少シト爲サス其後モシタスモト田テ其高法精理第  
 十三編ニ二氏ノ意見ヲ綜合シ殊ニ各國ノ政治組織ニ對スル財政制度ヲ表明シ  
 租稅ニ付テ租稅賦課論據ヲ公安ノ保險說ニ置キ又大ニ累進說ヲ主張シテ  
 第二 獨逸 財政學ノ發生ヲ期セシメ先テ財政其モノカ學問的ノ研究ニ價  
 値アル程度ヲ發達モスシム非ス封鎖制度壞レテ國家ノ目的ノ範圍膨脹スル  
 ト共ニ收入ヲ財源モ亦擴張セラレシ一方ニハ貨幣經濟力財政ノ整理ニ便宜ヲ與  
 フルコト大ナルニ隨ヒ管理法ヲ組織亦發生スルニ至レリ所謂官房學ナルモノ  
 ハ此管理法ノ研究ニシテ又實ニ學問的の攻究ヲ途ヲ開キタルモノナリ官房學派  
 ニ於テ主ナル學者ハ「ボルニウス」(Borrius)「グロウグ」(Groug)「コンラング」(Conrang)「ヒレトデ  
 ル」(Hilte)等ニシテ其後「ユスチー」ハ在來ノ研究ノ種目ヲ綜合兼類シテ  
 國家學及ヒ財政學ナルニ書ヲ著シタリ國家學千七百五十五年刊行ハ之ヲ二部  
 ニ大別シ第一部ニ於テハ國家ノ富ヲ維持並ニ増殖ノ理論ヲ研究シ第二部ニ於  
 テハ國家ノ富ヲ正當ナル使用ニ關スル理論即チ財政上ノ本論ヲ講述セリ所謂  
 廣義ノ官房學ニ對シテ狹義ノ官房學ト稱セラレルモノ是ナリ第二部ハ之ヲ三

編ニ分チ第一編ニ於テハ收入取得ノ方法ヲ論シ第二編ニ於テハ支出ヲ論シ第  
 三編ニハ財務行政即チ官房ノ組織並ニ經費ノコトヲ論セリ「ボーグ」初ノ佛蘭  
 西ニ於ケル重商主義カ官房學派ニ影響ヲ與ヘシコトハ上述セル所ノ如シ而シ  
 テ「ユスチー」ノ如キ又其影響ヲ受ケタル一人ニシテ國家ノ商業ヲ保護獎勵シ  
 テ民力ヲ充實セシメ以テ國民ノ負擔力ヲ増殖スルニキコトヲ主張シ其著國家論  
 ニ於テモ亦盛ニ「コルベア」ノ政策ヲ稱揚セリ氏カ王庫ト國庫ノ間ニ從來法律  
 上ヨリ區別セル意見ニ反對シテ使用ノ目的及ヒ權能ヨリ之ヲ分類セルカ如キ  
 國庫ノ收入ヲ其財源及ヒ目的ニ從ヒテ分類セルカ如キ國民ノ納付金ノ性質及  
 ヒ純收入ニ賦課スヘキ所以ヲ論セルカ如キ皆財政學上ニ紀元ヲ立ツルモノナ  
 リ蓋シ氏ノ財政論ハ第二期ヨリ第三期ニ入ルヘキ連續タルヘキモノニシテ重  
 農學派ノ理論的研究ノ途ヲ開キシモノナリトス  
 第三 英吉利及ヒ伊太利 第二期ニ於ケル英國ニ於テハ財政學ニ關シテ見ル  
 ヘキモノナシ「ボブス」(Bovus)等ノ租稅問題ベテ「チー」ノ政治數理學「デッカー」(Decker)  
 「グーリント」等ハ單稅論「スナント」(Schant)「ハッチソン」(Hatchison)「バーナード」(Bernard)等ハ公債論ノ如キ





「イリ」氏ノ租稅論等有名ナル著述續出スルニ至ラシモ所謂英國派ノ研究ニ重  
 リテハ現時殆ト其跡ヲ絶ツニ至レリ其著述ニ於テハ佛國ニ於テハ「ジヤンバ」  
 佛國ニ於テハ「ジヤンバ」氏ノ租稅論ニ於テハ「ジヤンバ」氏ノ租稅論ニ於テハ「ジヤンバ」  
 ニ唱道シタリ爾來佛國ニハ租稅並ニ公共收入ニ關スル著書頗ル多ク而モ此等  
 ハ多ク經濟學ノ方面ヨリハ事ロ自由正義ノ觀念ヲ基礎トセルモノニシテ社會  
 主義ノ臭味ヲ有スル財政策ニ付テハ全ク反對ノ地位ニ立テ今日ニ於テモ猶ホ  
 獨逸學派ニ對抗シテ所謂佛國人ノ特色ヲ發揮スルハ財政學上頗ル趣味アル現  
 象ナリトス  
 獨逸ノ官房學派モ「スミス」以後之カ改造ヲ催シ君主內廷側面ヨリ觀察シタル官  
 房學ハ一般公共經濟ノ側面ヨリ觀察シタル官房學ト相分離シテ獨立ノ財政學  
 ヲ組成スルニ至レリ其重ナル學者ヲ「カール・ハインリッヒ・ラウ」ト爲スラウハ千  
 八百三十二年其著經濟學ニ於テ經濟學ヲ三部ニ分チ財政學ヲ純正經濟學及ヒ  
 應用經濟學ニ對立シテ論述シタリ氏カ經濟學及ヒ財政學ニ與ヘタル功勞ハ主  
 トシテ其所說該博秩序ヲ失ハス有機的ニ綜合シテ所謂財政學ノ形式及ヒ實質

報

○刑法改正案 新刑法改正案ハ貴族院ノ特別審査委員會ニ於テ多少ノ修正  
 ヲ加ヘテ之ヲ可決シ去ル十八日ヲ以テ委員長ヨリ議長マテ報告ニ及ヒ二十日  
 ノ議事日程ニ上リ討議ノ末第二讀會ニ移スコトト爲レリ當日本校校長富井博  
 士カ貴族院ニ於テ演說セラレタル意見ノ要領ヲ掲ケテ讀者ノ參考ニ供センニ  
 第一本案ニ對シテ立法手續ヲ十分ニ盡サストノ反對說アルモ此議論ハ前議會  
 ニ於テハ多少ノ理由アリシナランモ今同ノ議案ニ對シテハ其理由ナシ何トナ  
 レハ政府ハ刑法改正ノ調査ニ著手セラレタルハ二十三年ノ頃ニシテ尋テ草案  
 ヲ公ニシ各地ノ裁判所並ニ辯護士會ノ意見ヲモ問ハレタルノミナラス殊ニ今  
 同ノ改正案ニ付テハ更ニ各裁判所並ニ辯護士會ニ諮詢シテ其意見ヲ徹シ其意  
 見ニシテ採用スヘキモノ及ヒ前議會ノ委員會ニ於テ委員ノ主張セラレタル條  
 正意見ハ成ルヘク之ヲ採用セラレタリ殊ニ刑法ハ民法商法等ト異ニシテ吾人  
 日常ノ生活上ニ密接ノ關係アル法律ニ非ス即チ刑法ノ條項ハ百般ノ取引上必

ス知ラサルヘカラスト云フ如キモノニ非タルヲ以テ民法商法等ノ如ク永ク草  
 案ヲ社會ニ賜スニ必要少カルヘシ且新ニ制定セラルル法律トモ異ナリテ二十  
 年來實驗シ來レル所ニ據リ改正セシトスルニ在ルコト判レハ決シテ立法手續  
 ニ缺タル所アリト謂フヘカラス第二ニ内容ノ議論ニ對シテハ(一)我國維新以來  
 開國主義ヲ執リテ著者制度ノ改正ヲ圖リ來レルニ刑法改正ニ關シテノモ慣習  
 成リテ而シテ後ニ改正セント云フ如キ議論ハ固ヨリ採用スヘキニ非ス今日既  
 ニ條約ハ改正セラレ外國トノ交通益々頻繁ヲ加フルニ際リ涉外的犯罪ニ關ス  
 ル規定ヲ缺クカ如キハ實際種種ノ疑問ノ紛起スルコトヲ免レサルヘク甚ク國  
 家ノ爲メニ憂フヘキコトナリトス次ニ(二)時勢ノ變遷ノ結果トシテ今日ニ於テ  
 ハ官吏、公吏ノ外ニ貴衆兩院ノ議員其他各種ノ委員ノ如キ公務ニ從事スル者數  
 多アリ隨テ現行法ノ瀆職罪職務ノ執行ヲ妨害スル罪其他官文書偽造罪等ニ關  
 スル規定ハ其適用狹キニ失シ到底刑法ノ精神ヲ貫徹スルコト能ハス(三)近來交  
 通機關並ニ各種ノ工業ノ發達ニ伴ヒ流車、電車、蒸氣、瓦斯、電氣等ニ關スル罰條ヲ  
 設クルコトヲ必要トス其他(四)民法商法等カ制定セラレタル結果現行刑法ト相

調和セザル點ヲ生スルニ至レリ彼ノ親屬例ノ如キ其一例タリ向ホ(五)現行刑法  
 ニ於テハ罪ノ輕重ト刑ノ輕重トノ權衡ヲ失シ罪ノ眞ノ重サニ適應スル所ノ刑  
 換言スレハ犯罪百般ノ情狀ニ應シテ適當ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス蓋シ犯罪ノ  
 輕重ハ單ニ殺人又ハ放火等ノ名目ノミニ由リテ定マルモノニ非ス故ニ本案ニ  
 於テハ刑ノ範圍ヲ廣クセリ是レ改正ノ一大眼目トスル所ナリ此點ハ反對論者  
 モ亦反對ノ主要ナル論點トセラルル所ニシテ本案ノ如ク範圍ヲ廣クスルトキ  
 ハ裁判官カ其適用ヲ誤ルコトアルヘク隨テ甚ク危險ナリト云フト雖モ凡ソ人  
 權ノ保護ハ實體法タル刑法ノ適用ヨリモ寧ロ司法警察若クハ豫審制度等手續  
 法ノ規定如何ニ關スルコト多シト爲ス此點ハ刑事訴訟法ノ改正ニ際シテ十分  
 攻究スヘキ事ト信ス本案ノ如ク刑ノ範圍ヲ廣クセハ實際ノ適用上多少相當ノ  
 刑ヨリ輕重ヲ生スルコトヲ免レサルヘシト雖モ現行法ノ如ク杓子定規的ノ規  
 定ヲ適用スルニ優レルコト言フヲ埃タス但此點ニ付テハ政府ハ大ニ讓歩シテ  
 前議會ニ提出セラレタル案ニハ自由刑ニ於テ一日以上トアリシヲ此度ノ改正  
 案ニハ一月以上トシ罰金刑ニ於テ一圓以上トアリシヲ二十圓以上トセル等反



對論ヲ容レタル述頗ル多シ此他修正ノ要點ト謂フヘキハ(六)再犯以上ノ犯罪ヲ防制スルノ策ヲ立テタルニ在リ蓋シ短期ノ自由刑ハ經驗上改悛ノ目的ヲ達スルコト能ハス是ニ於テカ一方ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ制度ヲ設ケ一方ニ於テハ再犯ノ刑ヲ重クシテ二倍ト爲シ以テ寬嚴其宜キヲ得セシメ(七)現行法ノ如ク刑名ノ多キハ其適用上煩雜ニ涉リ隨テ費用ヲ増スニ至ルヲ以テ其數ヲ減シ(八)數罪俱發ノ場合ニ於テ現行法カ吸收主義ヲ執レルニ反シテ改正案ハ制限的併科主義ヲ採用シ(九)罪名ノ區別ヲ廢シ(一〇)正當防衛ヲ殺傷ノ場合ノミニ限定セシメ(一一)未成年者ノ犯罪能力ヲ延長シテ成ルヘク懲治ノ目的ヲ達センコトヲ期ス(一二)監視ノ規定ニ付テハ議論多シト雖モ本案ノ運命ヲ賭スル程ノ大問題ニ非ス云云予ハ大體ニ於テ熱心ニ本案ニ贊成ノ意ヲ表スト云フニ在リキ

○擔任講師ノ變更 法學士吾孫子勝氏差支ノ爲メ擔任ヲ辭サレタルニ由リ其後任ヲ法學士中山成太郎氏ニ囑託シ去ル十五日ヨリ授業ヲ開始セラレタリ

右ニ付キ本講義録ニ於テモ吾孫子學士講述ノ分ハ既刊ノ分ニ止メ賣買ノ章以下更ニ中山講師ノ講義筆記ヲ登載スヘシ

對論ヲ容レタル述頗ル多シ此他修正ノ要點ト謂フヘキハ(六)再犯以上ノ犯罪ヲ防禦スルノ策ヲ立テタルニ在リ蓋シ短期ノ自由刑ハ經驗上改悛ノ目的ヲ達スルコト能ハス是ニ於テカ一方ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ制度ヲ設ケ一方ニ於テハ再犯ノ刑ヲ重クシテ二倍ト爲シ以テ寬嚴其宜キヲ得セシメ(七)現行法ノ如ク刑名ノ多キハ其適用上煩雜ニ涉リ隨テ費用ヲ増スニ至ルヲ以テ其數ヲ減シ(八)數罪俱發ノ場合ニ於テ現行法カ吸收主義ヲ執レルニ反シテ改正案ハ制限的併科主義ヲ採用シ(九)罪名ノ區別ヲ廢シ(一〇)正當防衛ヲ殺傷ノ場合ノミニ限定セズ(一一)未成年者ノ犯罪能力ヲ延長シテ成ルヘク懲治ノ目的ヲ達センコトヲ期シ(一二)監視ノ規定ニ付テハ議論多シト雖モ本案ノ連命ヲ賭スル程ノ大問題ニ非ス云云予ハ大體ニ於テ熱心ニ本案ニ賛成ノ意ヲ表スト云フニ在リヤ

○擔任講師ノ變更 法學士吾孫子勝氏差支ノ爲メ擔任ヲ辭テタルニ由リ其後任ヲ法學士中山成太郎氏ニ囑託シ去ル十五日ヨリ授業ヲ開始セラレタリ右ニ付キ本講義録ニ於テモ吾孫子學士講義ノ分ハ既刊ノ分ニ止メ賣買ノ章以下更ニ中山講師ノ講義筆記ヲ登載スヘシ

# 法學志林

第二十八號

二月二十日發行

毎月一回二十日發行○定價一冊金十錢郵税一錢  
校友、生徒、校外生ニ限り特價一冊金八錢郵税一錢  
十冊則金七十錢郵税十錢

## 志林 散錄 解疑 判例 雜報 記事

- 民法第七百四十九條第三項ノ場合ニ於テハ法定ノ推定家督相続人ト雖モ之ヲ離籍スルコトヲ得ルカ
- 舉證ノ責任 法學博士 梅 謙 次 郎
- 繼父又ハ繼母ト繼子トノ間ニ於ケル婚姻ノ禁制 法學博士 仁 井 田 益 太郎
- 白耳義ニ於ケル比例代表法ノ實施 法學博士 本 島 野 直 太郎
- 臺灣ノ婚姻法ニ就テ 法學博士 李 坪 野 間 人
- 交戦團體ノ承認及ヒ其國際公法上ノ地位 法學士 秋 山 雅 之
- 戰爭ノ權利ニ基クテ裏書及ヒ倍還請求權 法學博士 寺 富 谷 銚 太
- 取立委任ノ解除ニ於ケル刑ノ時効ト公訴ノ時効ト 法學士 島 直 通
- 關席判決ノ場合ニ於ケル刑ノ時効ト起算 法學士 島 直 通
- 關席判決ノ確定ト刑期ノ起算 法學士 島 直 通
- 大審院新判決七十二件
- 日英協約外十一件
- 講談會外二件

### 發行所

東京市麹町區富士見町六丁目  
(電話番町一七四)

司法省指定  
文部省認定

### 和佛法律學校



### 校外生規則摘要

講義錄ヲ分テ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一 講義錄ノ掲載科目左ノ如シ

- 第一學年 法學通論、民法第一編及七第二編第六章マテ、刑法總論、憲法、國際公法、經濟學
- 第二學年 民法(第三編)、商法第一編(第二編第三編)刑
- 法全論、民事訴訟法第一編(第二編)、刑事訴訟法、財政學
- 第三學年 民法(第二編第七章以下、第四編)、第五編、商法
- 第四編第五編、民事訴訟法(第三編以下)、破産法、行政
- 法、國際私法

一 講義錄、毎月六回左ノ期日ニ發行ス

- 第一學年 五日、二十日、第二學年 十日、廿五日
- 第三學年 廿五日、三十日(但二月三限ヲ末日)

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

- 第一學年 金三十錢 第二學年 金四十錢
- 第三學年 金五十錢 全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早速便ヲ以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治三十五年二月廿四日印刷  
明治三十五年二月廿五日發行  
(定價金貳拾五錢)

編輯兼 發行所 東京市牛込區東横町十七番地

編輯者 松田久次郎

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 小宮山信好

東京市芝區久保町七番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

電話番町百七十四番

明治二十二年十二月九日內務省許可  
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可